

第1回 政治倫理に関する検討会次第

日時：令和6年7月11日（木）

午前10時～

場所：江東区議会（委員会室）

協議事項

- 1 （仮称）江東区議会議員政治倫理条例について
(資料1-1)
(資料1-2)
(資料2)
(資料3)
(参考1)
(参考2)
- 2 議員研修について (資料4)
- 3 その他

(仮称) 江東区議会議員政治倫理条例 (案)

(目的)

第1条 この条例は、江東区議会（以下「議会」という。）及び江東区議会議員（以下「議員」という。）が区民の代表として人格及び倫理の向上に努め、その権限又は地位に基づく影響力を不正に行使して自己又は特定の者の利益を図ることのないよう政治倫理に関する基準を定めるなど、必要な措置を講ずることにより、区政に対する区民の信頼に応えとともに、公正で開かれた区政の発展に寄与することを目的とする。

(議会の役割)

第2条 議会は、前条の目的を達成するため、議員の政治倫理向上に資する取組を進めるとともに、区民に対する説明責任を果たし、並びに公正性及び透明性を確保しなければならない。

(議員の責務)

第3条 議員は、法令、条例等を遵守し、区民の代表として区政にかかわる権能と責務を深く自覚し、政治倫理基準を遵守して活動しなければならない。

2 議員は、自ら研鑽を積み、資質を高めるとともに、区民の信頼に値する倫理性を自覚し、区民の代表として名誉と品位を損なうような一切の行為を慎むよう努めなければならない。

3 議員は、議会及び議員の活動を積極的に区民に明らかにし、自ら率先して説明責任を果たさなければならない。

(区民の役割)

第4条 区民は、議員に対し、その権限又は地位の影響力を不正に行使させるよう働き掛けるなど、政治倫理基準を逸脱するいかなる行為も求めてはならない。

2 区民は、区民の代表たる議員の活動及び政治姿勢に注目するとともに、議員に対し、説明を求めることができる。

(政治倫理基準)

第5条 議員は、常に人格及び倫理の向上に努め、次に掲げる政治倫理基準を遵守しなければならない。

(1) 区政運営若しくは議会運営に著しく影響を与え、区民の信用若しくは信頼を失墜させる行為又は不正の疑惑を持たれる恐れのある行為を行わないこと。

(2) 区が行う委託、請負その他の契約、若しくは指定管理者の指定に関し、その権限又は地位の影響力を不正に行使し、特定の個人、企業又はその他の団

体のために、有利又は不利な取り計らいをしないこと。

- (3) 区職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、又は
抛出している団体及び指定管理者の職員に対し、その権限又は地位を利用
することにより、公正な職務執行を妨げ、職権を不正に行使する働き掛けを
しないこと。また、~~職員~~の採用、異動及び昇任に不当に関与する行為をしな
いこと。
- (4) その権限又は地位を利用して、職務の公正を疑われるような、いかなる金
品等も授受しないこと。
- (5) その権限又は地位を利用して、嫌がらせをし、強制又は強要し、若しくは
圧力をかけるなど、人権侵害のおそれのある全てのハラスメント行為や他
人の名誉を毀損する一切の行為をしないこと、又は第三者をして同様の行
為をさせないこと。
- (6) 報告会、チラシ、SNS等を利用した情報発信により、**虚偽の事実を提示**
し、又は誹謗中傷の発言をするなど、他人の名誉を毀損し、若しくは人格を
損なう一切の行為をしないこと、又は第三者をして同様の行為をさせない
こと。 → 文言を入れるかどうか

2 議員は、政治倫理基準に反する事実があるとの疑惑を持たれたときは、
自ら誠実な態度をもって、真相を明らかにするとともに、区民並びに議会に
対して説明責任を果たさなければならない。

(兼業の報告義務)

第6条 議員は、自らが区に対し請負をする場合又は次の各号のいずれかに該
当する法人等の役員、顧問若しくはこれらに準ずる職に就いた場合（既に就
いている場合を含む。）には、議長に対し、速やかに兼業報告書を提出しな
なければならない。当該報告書の内容に変更があったときも同様とする。

- (1) **主として収益事業を営む法人等**
→ 区に対し請負をする法人等、とするなど、限定するか否か
- (2) 区の許認可が必要な事業を営む法人等
- (3) 区から補助金等を受け、若しくは受けようとする法人等
- (4) 区の指定管理者の指定を受ける法人等

2 議長は、前項の規定により提出された兼業報告書を、当該報告書を提出し
た議員の在任期間中、区民からの請求に応じて閲覧に供しなければならない。
(調査請求)

第7条 議員が政治倫理基準に違反する行為をした疑いがあると認めるとき
は、請求代表者が、区民にあっては、議員の選挙権を有する者の**●人（●分の**
1）以上の連署をもって、議員にあっては、議員定数の8分の1以上の者の連

署をもって、議長に調査請求をすることができる。この場合において、請求代表者は、当該行為に係る資料を添付した別に定める調査請求書を、議長に提出しなければならない。

- 2 議長は、前項の調査請求書を受理したときは、その記載内容及び添付書面を確認し、不備があると認めるときは、相当の期間を定めて請求代表者に対し、その補正を命ずることができる。
- 3 議長は、調査請求の内容が政治倫理基準に違反する行為に該当しないなど、別に定める要件を満たしていないとき、又は請求代表者が前項の補正命令に従わないときは、当該請求を却下するものとする。調査請求が不適法であって補正することができないことが明らかなきも同様とする。
- 4 調査請求は、当該請求に係る行為のあった日の翌日から起算して \square 年を経過したときは、することができない。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りでない。

(審査会の設置)

第8条 議長は、前条の調査請求が適正であると認めたときは、速やかに江東区議会議員政治倫理審査会（以下「審査会」という。）を設置し、審査を付託する。

- 2 審査会の委員は、審査の対象となった議員（以下「審査対象議員」という。）を除く \square 人以内とし、議長が委嘱する。
- 3 審査会には委員の互選により会長及び副会長を置く。
- 4 委員の任期は、前条の調査請求に係る審査が終了するまでとする。

(審査会の審査)

第9条 審査会は、審査事案の審査を付託されたときは、政治倫理基準の違反行為の存否及び条例に定める措置について審査及び決定する。

- 2 審査会は、前項の審査を行うため、審査対象議員又は関係人に対し、事情聴取等必要な調査をすることができる。
- 3 審査対象議員は、審査会から審査に必要な資料の提出又は審査会への出席要求がある場合、それに従わなければならない。
- 4 審査会は、審査に際し、審査対象議員に文書又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。
- 5 審査会は、審査付託の日から60日以内に、議長に対し審査結果を報告するように努めるものとする。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りでない。
- 6 審査会は、審査対象議員が政治倫理基準に違反していると認められる場合は、議長に対して必要な措置を講じるよう求めるものとする。

(審査結果の通知及び公表)

第10条 議長は、審査会から審査結果の報告を受けたときは、請求代表者及び審査対象議員に文書で通知するとともに、その概要をホームページ等で公表するものとする。

(議会の措置)

第11条 議会は、審査会からの報告及び勧告を受けた事項を尊重し、政治倫理基準に違反したと認められるときは、議会の名誉と品位を守り、区民の信頼を回復するために必要と認められる措置を講ずるものとする。

→ 措置を明記するか否か(条例に明記するか、規程に明記するか、明記せず審査会等で決めるか)

2 議長は、審査会より審査対象議員が政治倫理基準に違反していないと報告を受けたときは、対象議員の名誉を回復する措置を決定するものとする。

(措置の公表)

第12条 議長は、前条の措置を行ったときは、その概要をホームページ等で公表するものとする。

(施行期日)

この条例は、令和●年●月●日から施行する。

政治倫理条例案に対する課題整理表

項目	課題	前回検討結果等
条文構成	・資料2にある各項目を条文に盛り込むか。	
政治倫理基準	・名誉棄損の禁止に「虚偽の事実を掲示し、」という文言を入れるか。	・採用等の文言削除 ・名誉棄損を分けた。
兼業の報告義務	・区と関わりのない企業等の役員となった場合も報告対象とするか。	・閲覧方法は区民から請求時に開示する。
住民・議員の調査請求	・住民の調査請求について何人（何分の1）以上で可能とするか。 (2,000人、1,000人、100人、1人) ・請求期限をどうするか。 (行為のあった日から1年、行為を知った日から1年、在任期間)	
政治倫理審査会	・審査会委員の人数・構成をどうするか。 (議員を除く、10人以下で議員2名、議員半数以下など) ・審査会委員の決定方法をどうするか。 (推薦、公募、条例及び規程に明記しない) ・審査会は臨時型か常設型か。 (臨時型、資産公開するなら常設型) ・審査会の審議を公開するか。 (原則非公開、原則公開)	・審査期日は60日とする。
議会の措置	・「議会は区民の信頼を回復するために必要な措置を講ずる」とし、規程に具体的な措置の内容を定めるか、又は具体的な措置を明記せずに審査会で措置を決定するか。 (条例明記、規程明記、明記しない) ・措置の種類をどうするか。 (①議場における議長による注意 ②議会・委員会等の一定期間の出停止勧告 ③議長・委員長等の役職辞任勧告 ④議員辞職勧告 ⑤その他、議長が必要と認めた措置 など)	・前回の検討会では、条例明記または明記しない、との意見もあったが、 <u>規程明記</u> であれば、どの会派も歩み寄れるという意見であった。 (墨田区は条例に、北区は規程に明記している。新宿区は条例及び規程に明記していない。)

項目	要否						○、×、△の理由	○、△の場合の条文の中身等についての意見
	目 参 無	新 時 代	公 明	共 産	維 新	無 所 属		
1 政治倫理 基準 ⑤道義的批 判を受ける 寄附等の自 粛	×	○	○	○	○	○	<p>【自参無】「政治的・道義的な批判」が客観的で判断が困難。政治資金規正法において規定されている。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】法律では一定の企業献金を禁じている一方で、政党や政治団体の寄付金の授受は認めている。政党支部が受けた企業献金を議員の資金管理団体に移す「迂回献金」が多発しているため、違法性がなくとも政治的・道義的に正される必要があると考える。</p>	<p>【無所属】政治活動に関して企業、団体から寄付を受けないこととし、資金管理団体についても政治的又は道義的批判を受けるおそれのある寄附を受けないこと</p>
2 ⑧反社会的 な団体等と の関わりの 禁止	×	○	○	○	○	○	<p>【自参無】反社会的団体の特定はどのようにするのか。江東区暴力団排除条例で対処すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p>	<p>【無所属】暴力団等反社会的勢力を利用しない、暴力団等反社会的勢力に利用されない、又は暴力団等反社会的勢力に関与しないこと</p>
3 請負等の 制限	×	×	○	○	○	○	<p>【自参無】地方自治法に準拠した請負は認めるべき。災害協定に基づく請負も想定される。6. 兼業報告で賄える。</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【共産】区民から疑惑を持たれないため辞退すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】地方自治法にも規定されているが、配偶者や親族の請負を禁じていないため代表者の名義替えが横行している。よって、自治法の請負禁止規定を尊重し、努力規定として条例項目に入れるべき。</p>	
4 指定管理者 の指定辞退	×	×	○	○	○	○	<p>【自参無】同上</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【共産】区民から疑惑を持たれないため辞退すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】努力規定ではなく義務規定として必要であると考え、努力義務でなければ憲法違反(企業の契約の自由、営業の自由)の疑義が生じるとの説がある。(他自治体でも義務規定の事例なし)</p>	
5 資産公開	×	×	△ ↓	○	×	○ ↓ △	<p>【自参無】意義がない</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】全議員が対象ではなく審査会が必要と認めた場合のみ当該議員に求めることができる」としたい。</p> <p>【共産】資産公開を行うことにより、不正の防止につながると考える。</p> <p>【維新】不正防止に効果があるとは言えない。</p> <p>【無所属】贈収賄を防止する為、また「政治倫理の確立のための国会議員の資産等の公開等に関する法律」に基づき、公職者の適格性を審査するために必要。配偶者等の資産報告は都議会では既に導入されている。</p>	
6 問責制度	×	×	×	△ 要 文 言 整 理	×	○	<p>【自参無】司法判断が待たれるタイミングで実効性に欠ける。司法判断後においても出処進退は議員本人が決めるべき</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】昨年江東区議会では、汚職防止対策等検討会において、議員報酬及び費用弁償に関する条例の改正を行っているため。</p> <p>【共産】説明責任を果たすことは重要である。</p> <p>【維新】釈明の必要性はない。</p> <p>【無所属】司法判断とは別に、区議会としての信頼回復をはかり、事件の被疑者・被告人が住民を代表する公職に留まることの政治倫理責任を問いたす必要があるため。</p>	<p>【共産】起訴された場合は、「説明会の開催を求めることができる」ではなく「開催しなければならない」とすべき。また、「開催されない場合、区民が開催を請求できる」との項目を設けるべき。</p> <p>【無所属】一般職であれば刑事事件の起訴で休職、有罪判決で免職になるのが通例であるため、議員も同様に問責事由は刑事事件とする。また、推定無罪の原則に則り、逮捕後の説明会は被疑者の申し出による開催を原則として、区民は起訴後に説明会の開催を請求する事ができる様にする。</p>

政治倫理条例における政治倫理審査会について

1 政治倫理審査会の役割

政治倫理審査会は、議員が政治倫理基準違反行為やその他の法令等の規定に違反し、政治的道義的に責任があるかどうかについて審査し、適当な勧告を行う機関である。

本区議会では、政治倫理審査会の設置について、臨時型か常設型か、また、議員や区民・有識者を含めて構成するのかなど、現在協議を進めている。

2 地方自治法に基づく附属機関の設置

地方自治法 138 条の 4 第 3 項では、執行機関には設置できるものとしているが、議会については規定がなく、法的には議会に附属機関は設置できないと解される。

3 法令に根拠のない附属機関の設置が違法となった例

法令等に根拠のない要綱で設置した違法性を理由に、その委員に対する報酬、報償金、又は謝礼の支給を違法とする住民訴訟の判決が定期的に出ている。

○ 大阪高裁平成 25 年 11 月 7 日判決

生駒市自治基本条例の運用状況等を市民の立場から見守るために要綱で設置された「市民自治推進会議」

○ 甲府地裁平成 31 年 1 月 29 日判決

市が出資した会社が破産したことの原因究明と目的に要綱で設置された「A 市 6 次化拠点整備事業検証委員会」

令和 2 年 3 月 全国町村会総務部法務支援室の「附属機関の整理」より引用

4 検討事項

議会に「審査、審議、調査を行う機関」として政治倫理審査会を置くことは「附属機関」を置くことと判断されるため、できないと考えることが地方自治法の一般的な解釈である。そのため、議員や有識者等で構成した政治倫理審査会を議会に設置することについては、慎重な判断が必要である。

江東区議会 政治倫理に関する検討会
中間報告書

令和6年3月

目 次

【本編】

- 1 はじめに 1
 - 政治倫理に関する検討会 委員名簿 2
- 2 政治倫理に関する検討会等の実施状況 3
- 3 政治倫理に関する検討会における検討結果について
 - (1) 意見が一致した事項 4
 - (2) 引き続き協議が必要な事項 5
- 4 次年度の検討会で検討が必要な課題について . . . 6
- 5 まとめ 6

【資料編】

- 政治倫理に関する検討会資料（第1回～第6回） . . . 7

1 はじめに

江東区議会では、令和4年8月に区議会議員1名があっせん収賄の罪で逮捕・起訴されるという不祥事が発生した。

本区議会では、この事態を重く受け止め、令和4年9月13日に「汚職防止対策等検討会」の設置を決定した。また、区民の皆様に信頼される議会運営及び改善に全力で取り組む決意を示すため、9月14日の本会議において「江東区議会の信頼回復に努めることを誓う決議」を全会一致で可決した。さらに、10月21日の本会議では、検討会での協議を踏まえ、議員が長期欠席した場合に議員報酬を支給しないことなどを定めた「江東区議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例」を可決した。

令和4年度に開催した「汚職防止対策等検討会」では、計9回にわたり検討を進め、政治倫理の明文化や議員の倫理意識の向上への取組について、更に十分な協議が必要であるとの結論に至った。これを踏まえ、令和5年6月20日に議長を会長、副議長を副会長とし、各会派幹事長及び無所属議員1名の8名で構成される「政治倫理に関する検討会」を設置し、これまで計7回の協議を実施した。

(政治倫理に関する検討会 委員名簿)

会 長	議 長	山 本 香代子
副会長	副議長	徳 永 雅 博
委 員	自参無	川 北 直 人
	新時代	吉 田 要
	公 明	石 川 邦 夫
	共 産	大嵩崎 かおり
	維 新	古賀 じょうじ
	無所属	さんのへ あや

※さんのへ あや議員（無所属）は令和5年12月3日付で江東区議会議員の職を自動失職となった。

※徳永 雅博議員（新時代）は令和6年2月21日付で副議長（副会長）の職を退任し、後任は小嶋 和芳議員（公明）となった。

2 政治倫理に関する検討会等の実施状況

計7回の検討会及び1回の議員研修会を開催した。

回	開 会 日	議 題
第1回	令和5年6月20日	1 検討会の設置について 2 外部有識者について 3 (仮称)江東区議会議員政治倫理条例について 4 議員研修について 5 その他
第2回	令和5年7月13日	1 (仮称)江東区議会議員政治倫理条例について 2 その他
第3回	令和5年8月25日	1 (仮称)江東区議会議員政治倫理条例について 2 議員研修について 3 その他
議員 研修会	令和5年9月11日	「議員が守るべき政治倫理とは」 講師：株式会社廣瀬行政研究所 廣瀬 和彦 氏
第4回	令和5年9月26日	1 (仮称)江東区議会議員政治倫理条例について 2 その他
第5回	令和5年10月27日	1 (仮称)江東区議会議員政治倫理条例について 2 その他
第6回	令和5年11月28日	1 (仮称)江東区議会議員政治倫理条例について 2 その他
第7回	令和6年3月15日	1 政治倫理に関する検討会の中間報告について 2 その他

3 政治倫理に関する検討会における検討結果について

(1) 意見が一致した事項

下記項目は、条例に盛り込むことで意見が一致した。その他、意見が一致した事項について表に記載している。

区分	項目	意見が一致した事項
1	目的	・ 条文の内容
2	議会の役割	・ 条文の内容
3	議員の責務	・ 条文の内容
4	区民の役割	・ 条文の内容
5	政治倫理規準	
①	信用失墜行為の禁止	・ 条文の内容
②	契約における不正な働きかけの禁止	・ 条文の内容
③	不当な影響力行使の禁止	・ 条文の内容
④	地位を利用した金品等授受の禁止	・ 条文の内容
⑤	人権侵害のおそれのある行為の禁止	・ 条文の内容
⑥	名誉棄損行為の禁止	
6	兼業の報告義務	・ 区民から請求を受けた際に兼業報告書を開示すること
7	住民・議員の調査請求	・ 議員定数の8分の1以上の者が調査請求できること
8	政治倫理審査会	・ 審査の期日を60日とすること
9	議会の措置	

(2) 引き続き協議が必要な事項

下記項目は、意見が一致せず、引き続き協議が必要な項目で、協議が必要な事項について、表に記載している。なお、区分1～5は、項目を盛り込むことについては意見が一致しているが、内容について意見が相違する部分があり、引き続き協議が必要な項目である。区分6～9は、条文に盛り込むかどうかについて、意見が相違する部分があり、引き続き協議が必要な項目である。

区分	項目	協議が必要な事項
1	政治倫理基準	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附等の自粛や反社会的な団体等との関わりの禁止を盛り込むか ・名誉棄損の禁止について、条文の内容をどうするか
2	兼業の報告義務	<ul style="list-style-type: none"> ・区と関わりのない企業等の役員となった場合も報告対象とするか
3	住民・議員の調査請求	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の調査請求について、何人（何分の1）以上で可能とするか ・調査請求期限をどうするか
4	政治倫理審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・審査会は臨時型か常設型か ・審査会委員の人数・構成、決定方法をどうするか ・審査会を公開とするか
5	議会の措置	<ul style="list-style-type: none"> ・議会の措置内容を規程等に明記するか ・措置の種類をどうするか
6	請負等の制限	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>条文に項目を盛り込むか</u> ・盛り込む場合は内容をどうするか
7	指定管理者の指定辞退	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>条文に項目を盛り込むか</u> ・盛り込む場合は内容をどうするか
8	資産公開	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>条文に項目を盛り込むか</u> ・盛り込む場合は内容をどうするか
9	問責制度	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>条文に項目を盛り込むか</u> ・盛り込む場合は内容をどうするか

4 次年度の検討会で検討が必要な課題について

下記項目は、次年度の検討会で検討が必要な課題である。

区分	項目	検討が必要な課題
1	条文構成及び内容	・前記、3（2）に記載している、引き続き協議が必要な事項
2	各種規程等の整備	・条例施行規程等の整備

※条文構成等が定まり次第、外部有識者からの意見聴取及び区民意見募集を実施する。

5 まとめ

政治倫理に関する検討会は、令和5年6月に設置されて以降、政治倫理条例の制定に向けて精力的に協議を行ってきた結果、条例の骨格についておおむね整理をすることができ、一部の政治倫理基準等について条例に規定することで合意を得た。一方で、条例に盛り込むべき項目やその内容等について、意見が一致しない点があり、更に議論を進めていく必要がある。

また、木村前区長及び本区議会議員3名が令和5年4月の区長選挙における公職選挙法違反で起訴されたことは、重大な事態であり、本検討会としても、同事件の審理の状況を引き続き注視していかなければならない。

については、令和5年度に協議した内容を来期につなげるとともに、江東区議会議員一人一人が、更に政治倫理の向上に努め、区民の皆様に信頼される議員活動を展開していけるよう全力で取り組むこととし、中間報告とする。

【資料編】

政治倫理に関する検討会資料
(第1回～第6回)

第1回 政治倫理に関する検討会次第

日時：令和5年6月20日（火） 午前10時～

場所：江東区議会（第一委員会室）

協議事項

- 1 検討会の設置について (資料1)
- 2 外部有識者について
- 3 (仮称) 江東区議会議員政治倫理条例について (資料2)
(参考1)
- 4 議員研修について
- 5 その他

政治倫理に関する検討会の設置について

(令和5年5月30日 議会運営委員会決定)

1 設置の目的

江東区議会における政治倫理の明文化及び議員の倫理意識の向上への取り組み等について協議するため、政治倫理に関する検討会を設置する。

2 構成

- (1) 本検討会に、会長及び副会長を置く。
- (2) 会長は議長をもって充て、本検討会を代表する。
- (3) 副会長は副議長をもって充て、会長を補佐する。また、会長に事故あるときは、その職務を行う。さらに、会長及び副会長ともに事故あるときは、会員が協議の上、会長の職務を代理するものを選任する。
- (4) 会員は、各会派幹事長および無所属議員1名とする。

3 会議の主宰等

- (1) 会長が会議を招集し、主宰する。
- (2) 会議の傍聴は、江東区議会議員のみとする。
- (3) 会議の議事録を調製し、これを公開することとする。
- (4) 検討状況に応じ、外部有識者（弁護士等）への意見聴取を行うものとする。

4 庶務

本検討会に関する庶務は、区議会事務局が行う。

5 その他

その他必要な事項は、会長が決定する。

江東区議会議員政治倫理条例の制定に向けたスケジュール案

江東区議会議員の政治倫理意識の向上のため、政治倫理に関する基準を規定した条例を制定する。6月から月に1回程度の検討会を実施し、令和5年度内に条例制定を目指すスケジュール案を検討。

条例制定スケジュール案

日程	会議	内容
6月	検討会	外部有識者の選定、スケジュールの確認
7月	検討会	条例構成等の検討 ↓ ※必要に応じて 外部有識者より意見聴取
8月	検討会	
9月	検討会	
10月	検討会	
11月	検討会	
12月	検討会	↓
1月	検討会	
2月	幹事長会・議運	議員提出条例案の協議
3月	幹事長会・議運	議員提出条例案の決定
	1定	条例の議決

他区の状況(政治倫理条例の制定)

※制定:3区

	制定日	検討機関等		パブコメ 実施	検討期間	
		検討機関等	構成			
1	北区	H11.5.1	平成10年6月に、議長の 諮問機関として「北区議会 政治倫理検討会」を設置。	会派按分による11名の委 員で構成するとして、一人 会派を除く6会派の按分 により委員を選出した。	×	平成10年6月 19日～11月 13日までの5 か月間程度
2	新宿区	H17.6.20	(1)平成16年4月に「新宿 区議会議員政治倫理条例 に関する懇談会」を設置し 検討。懇談会が議長へ「答 申」を提出。 (2)条例案起草委員会を 設置、検討。	(1)学識経験者2名、公募 区民5名、議員7名、事務 局2名の合計16名 (2)議員7名	○	平成14年5月 から平成17年 6月まで3年と 1か月程度
3	墨田区	R4.3.30	議会改革特別委員会内に 設置した同委員会運営協 議会で協議。 一定程度の方向性が見え てきた段階で、特別委員 会で協議し決定。	議会改革特別委員会:各 会派に所属する議員及び 会派に所属していない議 員から選出した計12名 で構成 議会改革特別委員会運 営協議会:委員長及び副 委員長並びに本特別委 員会委員の中から選出 した各会派1人の委員 並びに会派に所属して いない本特別委員会 委員で構成	○	令和元年度か ら令和3年度 までの3年間

第2回 政治倫理に関する検討会次第

日時：令和5年7月13日（木） 午前11時～

場所：江東区議会（第一委員会室）

協議事項

- 1 （仮称）江東区議会議員政治倫理条例について
(資料1)
(資料2)
(参考1)
- 2 その他

政治倫理条例に関する条文構成（例）について

資料 1

1. 主な条文項目

番号	項目	概要（例）	23区（新宿、北、墨田）導入自治体	全国導入自治体（抜粋）
1	目的	議会及び議員が区民の代表として人格及び倫理の向上に努め、その権限又は地位に基づく影響力を不正に行使して、自己又は特定の者の利益を図ることのないよう必要な措置を講じ、区政に対する区民の信頼に応える	（概ね）すべての自治体	
2	議会の役割	議会は、議員の政治倫理向上に資する取組を進め、区民に対する説明責任を果たし、公正性及び透明性確保をする	新宿区、墨田区	上尾市、府中市
3	議員の責務	議員は、法令、条例等を遵守し、区政の権能と責務を深く自覚し、政治倫理規準を遵守しなければならない 議員は、議会及び議員の活動を積極的に区民に明らかにし、自ら率先して説明責任を果たさなければならない	（概ね）すべての自治体	
4	区民の役割	区民は、議員に政治倫理規準を逸脱する行為を求めてはならない、また、議員活動及び政治姿勢の説明を求められることができる	新宿区、墨田区	千葉市、府中市
5	政治倫理規準	●信用失墜行為の禁止（墨田区） ●地位を利用した金品授受の禁止（墨田区・北区） ●不当（不正）な影響力行使の禁止（新宿区・墨田区） ●契約等についての不正な働きかけの禁止（北区） ●人権侵害（ハラスメント等）のおそれのある行為の禁止（新宿区・墨田区） ●道義的批判を受ける寄附（献金）の自粛（墨田区・北区）	（概ね）すべての自治体 ※基準は各自治体により異なる	
6	兼業の報告義務	議員は、自らが主として収益事業を営む法人又は区から補助金等を受ける法人等の役員、顧問若しくはこれらに準ずる職に就いた場合には、議長に対し、速やかに兼業報告書を提出しなければならない	新宿区、北区、墨田区	会津若松市、生駒市
7	住民・議員の調査請求	議員が政治倫理規準や法令等に違反した又は疑いがあるときは、議員又は区民が議長に調査請求をすることができる （墨田区：議員定数の8分の1以上の議員又は1000人以上の区民（18歳以上の者）の連署） （北 区：議員定数の8分の1以上の議員又は500人以上の区民の連署） （新宿区：議員定数の8分の1以上の議員又は100人以上の区民（20歳以上の者）の連署）	（概ね）すべての自治体	
8	政治倫理審査会	議長は調査請求が適正であると認めるときは、政治倫理審査会を設置し、当該調査請求に係る事案の審査を審査会に付託する （墨田区：議会の議決により議員政治倫理調査特別委員会を設置し、審査会の委員の定数は8人とする） （北 区：2年任期で審査会を置く。委員は13人とし、8人を議員、5人を区民及び識見を有する者から、議長が委嘱する） （新宿区：2年任期で審査会を置く。委員は8人とし、3人を議員、3人を区民、2人を識見を有する者から、議長が委嘱する）	（概ね）すべての自治体 ※議員のみで構成する審査会とし、必要に応じて外部有識者に調査をさせている自治体もある	
9	議会の措置	議長は、審査会（委員会）より政治倫理基準に違反している旨の報告を受けたときは、以下の措置を講じる （墨田区：(1) 議場での議長による注意 (2) 議会・委員会等の一定期間の出席停止催告 (3) 議長等の役職辞任催告 (4) 議員辞職催告） （北 区：議会は区民の信頼を回復するために必要な措置を講ずる） （新宿区：議会は区民の信頼を回復するために必要な措置を講ずる）	（概ね）すべての自治体	

2. その他の検討項目

番号	項目	概要（例）	23区（新宿、北、墨田）導入自治体	全国導入自治体（抜粋）
10	請負等の制限	議員や議員の配偶者が役員をし、若しくは実質的に経営に携わっている企業は、地方自治法第92条の2の規定の趣旨を尊重し、区を相手方とする工事若しくは製造の請負、業務の受託又は物品の売買に係る契約締結を辞退するよう努める	墨田区	取手市
11	指定管理者の指定辞退	議員や議員の配偶者が役員をし、若しくは実質的に経営に携わっている企業は、指定管理者とならないよう努める	墨田区	大月市
12	依頼等の記録義務	議員は、区の職員又は出資団体等者の職員に対し、その職務に関し、口頭又は文書により要望し、又は依頼をしたときは、その内容を記録した文書または文書の写しを、依頼等をした日から10日以内に議長に提出しなければならない	新宿区	会津若松市
13	資産公開	議員は、資産並びに前年1年間の収入及び税等の納付状況を記載した報告書を作成し、毎年、議長に提出しなければならない	なし	嘉麻市
14	問責制度	議員が犯罪等による起訴後、引き続きその職にとどまろうとするときは、議長に説明会の開催を求めなければならない。この場合において、議員は、説明会に出席し釈明しなければならない	なし	福岡市

23 区の導入区における政治倫理基準の例について

(墨田区・北区・新宿区)

墨田区

(政治倫理規準)

第5条 議員は、次に掲げる政治倫理規準を遵守しなければならない。

- (1) 区政運営若しくは議会運営に著しく影響を与え、又は区民の信用若しくは信頼を著しく失墜させる行為を行わないこと。
 - (2) 区民全体の奉仕者として常に人格及び倫理の向上に努め、その権限又は地位を利用していかなる金品も授受しないこと。
 - (3) 区の職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、又は拠出している団体及び指定管理者の役職員に対し、その権限又は地位を利用することにより、公正な職務執行を妨げ、又は職権を不正に行使するよう働き掛けをしないこと。
 - (4) その権限又は地位を利用して嫌がらせをし、強制し、強要し、若しくは圧力をかける行為をしないこと、又は人権侵害のおそれのある全てのハラスメント行為をしないこと。
 - (5) 政治活動における虚偽の事実の摘示、誹謗中傷の発言若しくは議会報告会、チラシ、ウェブサイト等を利用した情報発信により、他人の名誉を毀損し、若しくは人格を損なう一切の行為をしないこと、又は第三者をして同様の行為をさせないこと。
 - (6) 政治資金規正法（昭和23年法律第194号）等の法令に違反する寄附等のほか、政治活動に関し、政治的又は道義的な批判を受けるおそれのある寄附等を受けないこと。
 - (7) 墨田区特別区税条例（昭和39年墨田区条例第43号）の規定に基づく区税及び墨田区国民健康保険条例（昭和34年墨田区条例第14号）の規定に基づく国民健康保険料の完納又は健全な計画に基づく分納等を誠実に行うこと。
- 2 議員は、前項の規定又は法令、条例等に違反する行為（重大なものに限る。）を行った場合は、速やかに議長に報告しなければならない。
- 3 議長は、前項の規定による報告を受けたときは、速やかに議会としての対応を協議するものとする。
- 4 議員は、第1項に規定する政治倫理規準に反する事実があるとの疑惑を持たれたときは、自ら誠実な態度をもって疑惑の解明に当たるとともに、その責任を明確にするよう努めなければならない。

北区

(政治倫理基準)

第3条 議員は、次の各号に掲げる政治倫理基準を遵守しなければならない。

- (1) 区民全体の代表者として、その品位と名誉を損なう一切の行為を慎むとともに、東京都北区（以下「区」という。）の職員の採用に介入するなど、その職務に関し不当の疑惑をもたれるおそれのある行為をしないこと。
- (2) 区民全体の奉仕者として人格と倫理の向上に努め、その地位を利用し、職務の公正を疑わせるような金品の授受等をしないこと。

(3) 区が行う売買、委託及び請負の契約に関し、特定の個人及び企業その他の団体のために有利又は不利な取計らいをしないこと。

(4) 次条に規定する兼業・兼職報告書に記載した企業その他の団体に関し、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 92 条の 2 及び第 117 条の規定の趣旨を尊重し、区民に対し疑惑の念を生じさせることがないように努めること。

(5) 政治活動に関し、企業その他の団体から、政治的道義的批判を受けるおそれのある寄附等を受けないこと。特に、区と現に売買、委託及び請負の契約関係にある企業からの寄附等は自粛すること。政治資金規正法（昭和 23 年法律第 194 号）第 3 条第 1 項第 2 号に規定する団体（以下「後援団体」という。）についても同様とする。

2 議員は、政治倫理基準に反する事実があるとの疑惑を持たれたときは、自ら誠実な態度をもって疑惑の解明にあたるとともに、その責任を明確にするよう努めなければならない。

新宿区

第 2 章 政治倫理基準

（不正な影響力の行使の禁止）

第 5 条 議員は、区の職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、又は拠出している団体（以下「出資団体等」という。）及び指定管理者の役職員に対し、その権限又は地位を利用することにより、公正な職務執行を妨げ、又は妨げるような働きかけをしてはならない。

（依頼等をしたときの記録義務）

第 6 条 議員は、区の職員又は出資団体等若しくは指定管理者の役職員に対し、その職務に関し、口頭又は文書により意見を伝え、要望し、又は依頼をしたとき（以下「依頼等をしたとき」という。）は、口頭による場合はその内容を記録した文書（以下「記録文書」という。）を、文書による場合はその文書の写しを、依頼等をした日から 10 日以内に議長に提出しなければならない。ただし、公開の場等で依頼等をしたとき又は軽易な事項について依頼等をしたときは、この限りでない。

2 議長は、前項の規定により提出された記録文書及び文書の写しを、当該記録文書又は当該文書の写しを提出した議員の在任期間中、区民の閲覧に供しなければならない。

（兼業の報告義務）

第 7 条 議員は、議員となった時に、自ら事業を営んでいる場合又は次の各号のいずれかに該当する法人その他の団体（出資団体等を除く。以下「法人等」という。）の取締役、理事、監査役、監事、顧問若しくはこれらに準ずる職に就いている場合は、議員となった日から 1 か月以内に、議長に、兼業報告書（以下「報告書」という。）を提出しなければならない。

(1) 主として収益事業を営む法人等

(2) 区の許認可が必要な事業を営む法人等

(3) 区から補助金等を受け、又は受けようとする法人等

2 前項の規定は、議員が新たに自ら事業を営むこととなった場合又は新たに法人等の取締役、理事、監査役、監事、顧問若しくはこれらに準ずる職に就くこととなった場合について準用する。この場合において、同項中「議員となった日」とあるのは、「当該事業を営むこととなった日又は当該職に就くこととなった日」と読み替えるものとする。

3 議員は、前2項の規定により提出した報告書の内容に変更があったとき又は自ら事業を営むことをやめたとき若しくは法人等の取締役、理事、監査役、監事、顧問若しくはこれらに準ずる職を離職したときは、遅滞なくその旨を記載した届出書を議長に提出しなければならない。

4 議長は、第1項及び第2項の規定により提出された報告書（前項の規定により届出書が提出された場合は、当該届出書を含む。）を、当該報告書を提出した議員の在任期間中、区民の閲覧に供しなければならない。

5 報告書及び第3項の届出書の様式は、議長が別に定める。

（人権侵害のおそれのある行為の禁止）

第8条 議員は、その地位を利用して、嫌がらせをし、強制し、又は圧力を掛ける行為をしてはならない。

2 議員は、セクシュアル・ハラスメント（他の者が不快に感じる性的な言動をいう。）に当たる行為その他人権侵害のおそれのある行為をしてはならない。

江東区議会議員政治倫理条例の制定に向けたスケジュール案

江東区議会議員の政治倫理意識の向上のため、政治倫理に関する基準を規定した条例を制定する。6月から月に1回程度の検討会を実施し、令和5年度内に条例制定を目指すスケジュール案を検討。

条例制定スケジュール案

日程	会議	内容
6月	検討会	外部有識者の選定、スケジュールの確認
7月	検討会	条例構成等の検討 ↓ ※必要に応じて 外部有識者より意見聴取
8月	検討会	
9月	検討会	
10月	検討会	
11月	検討会	
12月	検討会	↓
1月	検討会	
2月	幹事長会・議運	議員提出条例案の協議
3月	幹事長会・議運	議員提出条例案の決定
	1定	条例の議決

第3回 政治倫理に関する検討会次第

日時：令和5年8月25日（金） 午後1時～

場所：江東区議会（第一委員会室）

協議事項

- 1 （仮称）江東区議会議員政治倫理条例について （資料1）
- 2 議員研修について （資料2）
- 3 その他

江東区議会議員政治倫理条例の条文構成例について

1 目的

【条文例】

この条例は、江東区議会（以下「議会」という。）及び江東区議会議員（以下「議員」という。）が区民の代表として人格及び倫理の向上に努め、その権限又は地位に基づく影響力を不正に行使して自己又は特定の者の利益を図ることのないよう政治倫理に関する基準を定めることにより、区政に対する区民の信頼に応えるとともに、公正で開かれた区政の発展に寄与することを目的とする。

Point

- ・議員の倫理向上に係る規定を作り、区民の信頼に応え、開かれた区政の発展に寄与するように、条例の目的を定める。

2 議会の役割

【条文例】

議会は、前条の目的を達成するため、議員の政治倫理向上に資する取組を進めるとともに、区民に対する説明責任を果たし、並びに公正性及び透明性を確保しなければならない。

Point

- ・政治倫理の向上のために議会が果たす役割について定める。

参考

令和5年5月8日施行による法改正により、議決権等の議会の役割及び住民の負託を受け、誠実に職務を行わなければならないという議員の職務が規定された(地方自治法第89条)。

3 議員の責務

【条文例】

議員は、法令、条例等を遵守し、区民の代表として区政にかかわる権能と責務を深く自覚し、政治倫理基準を遵守して活動しなければならない。

2 議員は、議会及び議員の活動を積極的に区民に明らかにし、自ら率先して説明責任を果たさなければならない。

Point

- ・議員は政治倫理基準を遵守して活動するということを定める。
- ・議員は区民に対して説明責任を果たすということを定める。

4 区民の役割

【条文例】

区民は、議員に対し、政治倫理基準を逸脱するいかなる行為も求めてはならない。
2 区民は、区民の代表たる議員の活動及び政治姿勢に注目し、議員に対し、説明を求めることができる。

Point

- ・区民は議員に政治倫理基準を逸脱する行為を求めないことを定める。
- ・議員に説明を求めるといふ、区民の役割を定める。

5 政治倫理基準

【条文例】

議員は、常に人格及び倫理の向上に努め、次に掲げる政治倫理基準を遵守しなければならない。

①信用失墜行為の禁止	区政運営若しくは議会運営に著しく影響を与え、又は区民の信用若しくは信頼を著しく失墜させる行為を行わないこと。 例) 政務活動費の不正使用。贈収賄等の犯罪行為。議会活動内外での不祥事。
②契約における不正な働きかけの禁止	区が行う委託、請負その他の契約に関し、特定の個人、企業又はその他の団体のために、有利又は不利な取り計らいをしないこと。 例) 契約に関し、特定の個人又は企業が有利となるように入札予定価格を聞き出すなど、職員へ働きかける行為。
③不当な影響力行使の禁止	区職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、又は拠出している団体及び指定管理者の職員に対し、その権限又は地位を利用することにより、公正な職務執行を妨げ、又は職権を不正に行使するよう働きかけをしないこと。 例) 職員の採用、異動等に関して不正に介入する行為。特定の者に対して有利又は不利な状況となる政策立案中の資料等の提供を職員へ求める行為。

④地位を利用した金品等授受の禁止	その権限又は地位を利用して、職務の公正を疑われるような、いかなる金品等も授受しないこと。
例) 口利きによる報酬を得る行為。実働のない顧問料等を授受する行為。	
⑤道義的批判を受ける寄附等の自粛	政治資金規正法(昭和23年法律第194号)等の法令に違反する寄附等のほか、政治活動に関し、政治的又は道義的な批判を受けるおそれのある寄附等を受けないこと。
例) 法令に違反しないとしても、区民に不信感を与えかねないような寄付を受ける行為。	
⑥人権侵害のおそれのある行為の禁止	その権限又は地位を利用して、嫌がらせをし、強制し又は強要し、若しくは圧力をかけるなど、人権侵害のおそれのある全てのハラスメント行為をしないこと。
例) パワーハラスメント、セクシャルハラスメントなどの行為。	
⑦名誉棄損行為の禁止	報告会、チラシ及びSNS等を利用した情報発信により、虚偽の事実を提示または誹謗中傷の発言をするなどし、他人の名誉を毀損し、あるいは人格を損なう一切の行為をしないこと、又は第三者をして同様の行為をさせないこと。
例) SNS等で虚偽の事実を発信し、特定の個人の誹謗中傷発言をする行為。	
⑧反社会的な団体等との関わりの禁止	反社会的勢力を利用し、若しくは反社会的勢力に利用され、又は反社会的勢力の活動に関与しないこと
例) 暴力団など反社会的な団体又は個人と関わりを持つ行為。	
⑨その他法令等違反の禁止	上記に掲げるもののほか、法令その他の規程に違反しないこと。
<p>2 議員は、政治倫理基準に反する事実があるとの疑惑を持たれたときは、自ら誠実な態度をもって、真相を明らかにするとともに、区民並びに議会に対して説明責任を果たさなければならない。</p>	

※上記、各政治倫理基準の条文例下段に記載している違反の例は条文には入らない。

Point

- ・議員が遵守すべき政治倫理基準を定める。
- ・疑惑を持たれた議員は、自らその説明責任を果たさなければならないということを定める。
- ・上記、政治倫理基準の①～⑥について規定している自治体が比較的多い。

参考

墨田区: ①信用失墜行為の禁止③不当な影響力行使の禁止④地位を利用した金品等授受の禁止⑤道義的批判を受ける寄附等の自粛⑥人権侵害のおそれのある行為の禁止⑦名誉棄損行為の禁止、ほか、納税・保険料の納付の行う旨を規定。

北 区:①信用失墜行為の禁止②契約における不正な働きかけの禁止④地位を利用した金品等授受の禁止⑤道義的批判を受ける寄附等の自粛⑩採用等への不正な働きかけの禁止、ほか、請負について疑念をいだかせない旨を規定
新宿区:③不当な影響力行使の禁止⑥人権侵害のおそれのある行為の禁止

6 兼業の報告義務

【条文例】

議員は、自らが区に対し請負をする場合や、主として収益事業を営む法人、区の許認可が必要な事業を営む法人又は区から補助金等を受け、若しくは受けようとする法人等の役員、顧問若しくはこれらに準ずる職に就いた場合（既に就いている場合を含む。）には、議長に対し速やかに、別に定める兼業報告書を提出しなければならない。当該報告書の内容に変更があったときも同様とする。

2 議長は、前項の規定により提出された兼業報告書を、当該報告書を提出した議員の在任期間中、区民の閲覧に供しなければならない。

Point

- ・議員は、区民全体の奉仕者として高い倫理基準が課されていることから、兼業等の実態について明らかにするために定める。
- ・法的に、請負が全面的に禁止されているわけではないため、請負の辞退を規定するのではなく、報告を課して、区民に明らかにすることで、法律違反や不正の抑止力を持たせるように定める。
- ・配偶者も含めて報告するように定める墨田区の例もある。
- ・区と関連のない企業等の役員等になった場合も報告するように定める北区の例もある。

参考

地方公共団体からの個人の請負は禁止されていたが、令和5年3月1日施行による法改正により、年間300万円の範囲であれば可能となった。なお、従前より地方公共団体から議員が取締役等を務める法人等が請負をする場合、請負が業務の主要部分を占めなければ可能となっている(地方自治法第92条の2)。

参考

地方公共団体から補助金の交付又は指定管理者の指定を受けることは、地方自治法第92条の2の請負に該当しない(平成30年4月25日付総務省通知)。

7 住民・議員の調査請求

【条文例】

議員が政治倫理基準又は法令等に違反する行為をした疑いがあると認めるときは、請求代表者が、区民にあつては、議員の選挙権を有する者の●人以上の連署をもって、議員にあつては、議員定数の8分の1以上の者の連署をもって、議長に調査請求をすることができる。この場合において、請求代表者は、当該行為に係る資料を添付した別に定める調査請求書を、議長に提出しなければならない。

2 議長は、前項の調査請求書を受理したときは、その記載内容及び添付書面を確認し、不備があると認めるときは、相当の期間を定めて請求代表者に対し、その補正を命ずることができる。

3 議長は、調査請求の内容が政治倫理基準又は法令等に違反する行為に該当しないなど、別に定める要件を満たしていないとき、又は請求代表者が前項の補正命令に従わないときは、当該請求を却下するものとする。調査請求が不適法であつて補正することができないことが明らかなきも同様とする。

4 調査請求は、当該請求に係る行為のあつた日の翌日から起算して1年を経過したときは、することができない。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りでない。

Point

- ・政治倫理基準や法令等に違反する疑いがある場合などに、住民又は議員が、議長に対して調査を請求することができるように定める。
 - ・区民は●人以上(※1)、議員は議員定数の8分の1以上(※2)で調査請求ができることなどを定める。
- ※1 墨田区は1,000人、北区は500人、新宿区は100人。

参考

住民監査請求は1人でも可能。一方、事務監査請求は有権者の50分の1以上の連署をもって行うことが可能。政治倫理条例の調査請求に係る人数は明確な基準がない。

※2 地方自治法135条2項(懲罰の動議を議題とする場合)に準ずる。

- ・調査請求は、当該請求に係る行為のあつた日の翌日から起算して1年を経過したときは、することができない(※3)ことを定める。

※3 住民監査請求に準ずる。

8-1 審査会の設置

【条文例】

議長は、前条の調査請求が適正であると認めたときは、速やかに江東区議会議員政治倫理審査会（以下「審査会」という。）を設置し、審査を付託する。

2 審査会は、審査の対象となった議員（以下「審査対象議員」という。）を除く、議長が委嘱する議員●人をもって組織する。

3 審査会には委員の互選により委員長及び副委員長を置く。

4 委員の任期は、前条の調査請求に係る審査が終了するまでとする。

Point

- ・住民又は議員からの調査請求がある場合に調査や審査を行う機関を設置するために定める。
- ・地方自治法第138条の4に、執行機関(行政側)に附属機関を設置できる規定があるが、議会に附属機関を設置できる規定がなく、議会に外部の有識者を入れて構成する「第三者機関」を設置することは想定されていないと解釈されている。
- ・したがって、議員のみで構成する特別委員会を設置する墨田区の例や、審査会は議員のみで構成し、必要に応じて地方自治法第100条の2により、外部有識者に調査をさせる規定を置く伊勢市の例がある。

参考

墨田区：調査請求が適正であると認めたときは、議会の議決により議員政治倫理調査特別委員会を設置し、審査会の委員の定数は8人とする。

北 区：2年任期で審査会を置く。委員は13人とし、8人を議員、5人を区民及び識見を有する者から、議長が委嘱する。

新宿区：2年任期で審査会を置く。委員は8人とし、3人を議員、3人を区民、2人を識見を有する者から、議長が委嘱する。

伊勢市：調査請求があったときは、伊勢市議会議員政治倫理審査会を設置し、審査会の委員の定数は9人以内とする。必要に応じて地方自治法第100条の2により、外部有識者に調査をさせることができる。

8-2 審査会の審査

【条文例】

審査会は、審査事案の審査を付託されたときは、政治倫理基準違反行為の存否及び条例に定める措置について審査及び決定する。

2 審査会は、前項の審査を行うため、審査対象議員又は関係人に対し、事情聴取等必要な調査をすることができる。

3 審査対象議員は、審査会から審査に必要な資料の提出又は審査会への出席要求が

ある場合、それに従わなければならない。

- 4 審査会は、審査に際し、審査対象議員に書面又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。
- 5 審査会は、審査に必要があるときには、地方自治法第 100 条の 2 の規定により、識見を有する者に事案について調査させるものとする。
- 6 審査会は、審査付託の日から●日以内に、議長に対し審査結果を報告するように努めるものとする。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りでない。
- 7 審査会は、審査対象議員が政治倫理基準又は法令等に違反していると認められる場合は、議長に対して必要な措置を講じるよう求めるものとする。

Point

- ・審査会に審査が付託された際に、審査に必要な事項を定める。
- ・審査会が審査対象議員又は関係人に対し、事情聴取等必要な調査をすることができることを定める。
- ・審査に際し、審査対象議員に弁明の機会を与える(※1)ことなどを定める。
 - ※1 墨田区は弁明の機会を必ず与える。北区・新宿区は審査対象議員の請求による。
- ・議会に附属機関を設置することは想定されていないという解釈から、必要に応じて地方自治法第 100 条の 2 の規定により、識見を有する者に事案について調査させることを定める。
- ・審査会が審査付託の日から●日以内(※2)に、議長に対し審査結果を報告するように努めるというように審査期日を定める。

※2 墨田区・新宿区は 60 日、北区は 90 日

参考

住民監査請求は監査委員が監査する場合 60 日以内、弁護士等の外部監査人に個別監査を請求した場合は 90 日以内に監査を行う。

9-1 議会の措置

【条文例】

議長は、審査会より報告を受け、前条 7 項に基づく求めがあったときは、以下の措置を決定し、速やかに請求代表者及び審査対象議員に対し、その内容を文書で通知するものとする。なお、2 以上の措置を併せて講ずることを妨げない。

- (1) 議場における議長による注意
- (2) 議会・委員会等の一定期間の出席停止勧告
- (3) 議長・委員長等の役職辞任勧告
- (4) 議員辞職勧告

2 議長は、審査会より審査対象議員に政治倫理基準又は法令等に違反していないと

報告を受けたときは、速やかに請求代表者及び審査対象議員に対し、その内容を文書で通知し、対象議員の名誉を回復する措置を決定するものとする。

Point

- ・審査会より議長が報告を受けた際に、講じる措置について必要な事項を定める。
- ・(1)(2)(4)については、地方自治法135条1項(懲罰の種類)に準ずる。
- ・(3)は他自治体の例による。

参考

墨田区：特別委員会が措置 (1) 議場における議長の注意、(2) 議場における謝罪文の朗読、(3) 一定期間の出席停止勧告、(4) 議会の特別委員の辞任勧告、(5) 議長等の役職辞任勧告、(6) 議員の就任する附属機関委員の辞任勧告、(7) 議員辞職勧告

北区：議会が措置 区民の信頼を回復するために必要と認められる措置を講ずるとし、具体的な措置を明記していない。

新宿区：議会が措置 区民の信頼を回復するために必要と認められる措置を講ずるとし、具体的な措置を明記していない。

府中市：議長が措置 区民の信頼を回復するために必要と認められる措置を講ずるとし、具体的な措置を明記していない。

9-2 審査結果の公表

【条文例】

議長は、前条の措置を行ったときは、その内容をホームページ等で公表するものとする。

Point

- ・前条における措置を講じた場合に、議長がホームページ等で公表すること定める。

10 請負の辞退

【条文例】

議員は、区に対する請負（業として行う工事の完成若しくは作業その他の役務の給付又は物件の納入その他の取引で当該普通地方公共団体が対価の支払をすべきものをいう）を辞退し、もって区民に疑惑を生じさせないように努めるものとする。

2 議員が主として同一の行為をする法人の無限責任社員、取締役、執行役若しくは監査役若しくはこれらに準ずべき者、支配人及び清算人たる場合も前項と同様とする。

3 前2項の規定は、災害等で緊急を要するときは、この限りでない。

Point

- ・地方自治法92条の2は、議員が当該自治体に対して政令で定める額を超えて請負をすること、又は役員等を務める法人が当該自治体と業務の主要部分を占める請負をすることについて禁止している。これらを踏まえて、法律で禁止されている事項以外に区民の疑念を招かぬように請負について辞退するように努める旨を定める。
- ・配偶者も含めて辞退するように定める墨田区の例もある。

参考

地方公共団体からの個人の請負は禁止されていたが、令和5年3月1日施行により法改正により、年間300万円の範囲であれば可能となった。なお、従前より地方公共団体から議員が取締役等を務める法人等が請負をする場合、請負が業務の主要部分を占めなければ可能となっている(地方自治法第92条の2)。

参考

地方公共団体から補助金の交付又は指定管理者の指定を受けることは、地方自治法第92条の2の請負に該当しない(平成30年4月25日付総務省通知)。

11 指定管理者の指定の辞退

【条文例】

議員は、前条に規定する企業に関係する場合、当該企業が地方自治法第244条の2第3項に規定する指定管理者とならないよう努めるものとする。ただし、他に適当な指定管理者がない等やむを得ない事情のあるときは、この限りでない。

Point

- ・請負辞退の規定における趣旨と同様、議員が役員で、経営方針や主要な取引に関与をするなど、実質的に経営に携わっている企業は指定管理者とならないように努め、区民の疑念を招かぬように定める。
- ・配偶者も含めて辞退するように定める墨田区の例もある。

参考

地方公共団体から補助金の交付又は指定管理者の指定を受けることは、地方自治法第92条の2の請負に該当しない(平成30年4月25日付総務省通知)。

12 依頼等をしたときの記録義務

【条文例】

議員は、区の職員又は出資団体等若しくは指定管理者の役職員に対し、その職務に関し、口頭又は文書により意見を伝え、要望し、又は依頼をしたときは、口頭による場合はその内容を記録した文書を、文書による場合はその文書の写しを、依頼等をした日から10日以内に議長に提出しなければならない。ただし、公開の場等で依頼等をしたとき又は軽易な事項について依頼等をしたときは、この限りでない。

Point

- ・議員が区職員等に依頼等をした時に議員が記録する義務を規定するもの。日時及び依頼の内容等を記載した対応記録を作成することを明記し、情報公開できるように定める。
- ・23区では新宿区、全国では会津若松市が規定している例がある。
- ・江東区では、令和5年5月1日に「一定の公職にある者等からの不正な働きかけ等に関する取扱規程」を施行し、区職員が議員等から不正な働きかけ等があった場合に、その働きかけ等について区職員が記録表を作成することなどを定めた。

13 資産公開

【条文例】

(資産報告書等の提出)

議員は、その任期開始の日において有する次の各号に掲げる資産等について、当該資産等の区分に応じ当該各号に掲げる事項を記載した資産等報告書を、任期開始の日から起算して100日を経過する日までに、議長に提出しなければならない。

- (1) 土地（信託している土地を含む。）所在、面積及び固定資産税の課税標準額並びに相続（被相続人からの遺贈を含む。）により取得した場合は、その旨
- (2) 建物の所有を目的とする地上権又は土地の賃借権 当該権利の目的となっている土地の所在及び面積並びに相続により取得した場合は、その旨
- (3) 建物 所在、床面積及び固定資産税の課税標準額並びに相続により取得した場合は、その旨
- (4) 預金（当座預金及び普通預金を除く。）及び貯金（普通貯金を除く。） 預金及び貯金の額
- (5) 有価証券（金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第2条第1項及び第2項に規定する有価証券に限る。）種類及び種類ごとの額面金額の総額（株券にあっては、株式の銘柄及び株数）
- (6) 自動車、船舶、航空機及び美術工芸品（取得価格が100万円を超えるものに限る。）種類及び数量

(7) ゴルフ場の利用に関する権利（譲渡することができるものに限る。） ゴルフ場の名称

(8) 貸付金（生計を一にする親族に対するものを除く。） 貸付金の額

(9) 借入金（生計を一にする親族からのものを除く。） 借入金の額

2 議会の議員は、その任期開始の日後毎年新たに有することとなった前項各号に掲げる資産等であって12月31日において有するものについて、当該資産等の区分に応じ同項各号に掲げる事項を記載した資産等補充報告書を、その翌年の4月1日から同月30日までの間に、議会の議長に提出しなければならない。

(所得等報告書の提出)

議員は、次に掲げる金額及び課税価格を記載した所得等報告書を、毎年、4月1日から同月30日までの間（当該期間内に任期満了又は議会の解散による任期終了により議会の議員でない期間がある者で当該任期満了又は議会の解散による選挙により再び議会の議員となったものにあつては、同月1日から再び議会の議員となった日から起算して30日を経過する日までの間）に、議長に提出しなければならない。

(1) 前年分の所得について同年分の所得税が課される場合における当該所得に係る次に掲げる金額（当該金額が100万円を超える場合にあつては、当該金額及びその基となった事実）

ア 総所得金額（所得税法（昭和40年法律第33号）第22条第2項に規定する総所得金額をいう。）及び山林所得金額（同条第3項に規定する山林所得金額をいう。）に係る各種所得の金額（同法第2条第1項第22号に規定する各種所得の金額をいう。）

イ 租税特別措置法（昭和32年法律第26号）の規定により、所得税法第22条の規定にかかわらず、他の所得と区分して計算された所得の金額であつて議会の議長が定めるもの

(2) 前年中において贈与により取得した財産について同年分の贈与税が課される場合における当該財産に係る贈与税の課税価格（相続税法（昭和25年法律第73号）第21条の2に規定する贈与税の課税価格をいう。）

(関連会社等報告書の提出)

議員は、毎年、4月1日において報酬を得て会社その他の法人（法人でない社団又は財団で代表者又は管理人の定めがあるものを含む。）の役員、顧問その他の職に就いている場合には、当該会社その他の法人の名称及び住所並びに当該職の名称を記載した関連会社等報告書を、同月2日から同月30日までの間（当該期間内に任期満了又は議会の解散による任期終了により議会の議員でない期間がある者で当該任期満了又は議会の解散による選挙により再び議会の議員となったものにあつては、同月2日から再び議会の議員となった日から起算して30日を経過する日までの間）に、議長に提出しなければならない。

(資産等報告書等の保存及び閲覧)

前3条の規定により提出された資産等報告書及び資産等補充報告書、所得等報告書並びに関連会社等報告書は、これらを受理した議会の議長において、これらを提出すべき期間の末日の翌日から起算して5年を経過する日まで保存しなければならない。

- 2 何人も、議長に対し、前項の規定により保存されている資産等報告書及び資産等補充報告書、所得等報告書並びに関連会社等報告書の閲覧を請求することができる。

Point

- ・議員の資産等を公開する措置を講ずること等により、政治倫理の確立を期すため定める。
- ・法律上、区議会議員の資産公開は義務ではないため23区で規定している自治体はない。
- ・市区町村長の資産公開は義務付けられていることから、江東区では、平成7年12月12日に「江東区長の資産等の公開に関する条例」を施行している。
- ・市区町村長や政令指定都市の市議会議員の資産公開条例では、主に以下4項目が規定されている。
 - 資産報告書等の提出(土地、建物、預金及び貯金、有価証券等)
 - 所得等報告書の提出(総所得金額、贈与により取得した財産等)
 - 関連会社等報告書の提出(役員等で報酬を得ている場合に法人名、住所、職名を記載)
 - 資産等報告書等の保存及び閲覧

参考

「政治倫理の確立のための国会議員の資産等の公開等に関する法律」第7条(平成5年1月1日施行)により、都道府県知事、市区町村長、都道府県議会議員、政令指定都市議会議員については、国会議員に準じて資産公開が義務付けられた(これにより、江東区長の資産公開条例が制定された)。

14 問責制度

【条文例】

議員は、刑法(明治40年法律第45号)第197条から第197条の4までの各条及び第198条に定める贈収賄罪並びに公職にある者等のあつせん行為による利得等の処罰に関する法律(平成12年法律第130号)第1条の罪(以下「職務関連犯罪」という。)による逮捕後、なお引き続きその職にとどまろうとするときは、議長に、区民に対する説明会の開催を求めることができる。

- 2 議員は、職務関連犯罪により起訴され、なお引き続きその職にとどまろうとするときは、議長に、区民に対する説明会の開催を求めることができる。この場合において、当該議員は説明会に出席し、釈明しなければならない。
- 3 議員が職務関連犯罪の罪により有罪判決の宣告を受け、その刑が確定する前で、

なお引き続きその職にとどまろうとするときの説明会の開催等については、前条の規定を準用する。

- 4 議員は、職務関連犯罪の罪により有罪判決の宣告を受け、その刑が確定したときは、公職選挙法(昭和25年法律第100号)第11条第1項の規定により失職する場合を除き、区民全体の代表者としての品位と名誉を守り、区民に対する信頼を回復するため、辞職手続きをとるものとする。

Point

- ・犯罪容疑で逮捕・起訴された議員が、引き続きその職にとどまろうとする時に説明会を開かせ釈明の機会を与えるために定める。
- ・23区で規定している自治体はない。

参考

逮捕から、有罪確定まで順を追って、釈明の機会を与える会津若松市の例がある。

- 職務関連犯罪による逮捕後の説明会
- 職務関連犯罪による起訴後の説明会
- 職務関連犯罪の有罪判決後の説明会
- 職務関連犯罪の有罪確定後の辞職措置

参考

「公職にある者等のあつせん行為による利得等の処罰に関する法律 第1条」

地方公共団体の議会の議員が、国若しくは地方公共団体が締結する売買、貸借、請負その他の契約又は特定の者に対する行政庁の処分に関し、請託を受けて、その権限に基づく影響力を行使して公務員にその職務上の行為をさせるように、又はさせないようにあつせんをすること又はしたことにつき、その報酬として財産上の利益を収受したときは、三年以下の懲役に処する。

2 地方公共団体の議会の議員が、国又は地方公共団体が資本金の二分の一以上を出資している法人が締結する売買、貸借、請負その他の契約に関し、請託を受けて、その権限に基づく影響力を行使して当該法人の役員又は職員にその職務上の行為をさせるように、又はさせないようにあつせんをすること又はしたことにつき、その報酬として財産上の利益を収受したときも、前項と同様とする。

政治倫理に関する議員研修の実施について

1 研修の目的

江東区議会議員の倫理意識の向上を図るため、研修を実施する。

2 日程・実施方法

- ・ 令和5年9月11日（月） 午後1時30分から4時まで（予定）
- ・ 区議会本会議場にて全議員を対象に実施

3 研修内容

「議員が守るべき政治倫理とは」

- ・ なぜ政治倫理が必要か
- ・ 政治倫理条例の対象を考える
- ・ 政治倫理違反への罰則の限界
- ・ 政治倫理と兼業禁止への規制
- ・ 政治倫理審査会
- ・ 資産公開制度
- ・ SNS等による議会外での不適切な言動への対応 など

4 研修講師

廣瀬和彦 氏

（株）廣瀬行政研究所代表取締役
明治大学政治経済学部講師・明治大学公共政策大学院講師
元全国市議会議長会法制参事

第4回 政治倫理に関する検討会次第

日時：令和5年9月26日（火） 午前10時～

場所：江東区議会（第一委員会室）

協議事項

- 1 （仮称）江東区議会議員政治倫理条例について （資料1）
（参考1）
- 2 その他

番号	項目	要否						○、×、△の理由	○、△の場合の条文の中身等についての意見
		自参無	新時代	公明	共産	維新	無所属		
1	目的	△	○	○	○	○	○	<p>【共産】条例の対象は、江東区議会と江東区議会議員とすべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】立法目的を明らかにし条例の内容を簡潔に示し、解釈運用の指針として必要</p>	<p>【自参無】4行目 区民の信頼→区民からの信頼</p> <p>【無所属】この条例は、区政が区民の厳粛な信託によるものであることにかんがみ、その受託者たる区議会の議員は、区民全体の奉仕者として人格と倫理の向上に努め、いやくもその権限または地位の影響力を不正に行使して自己又は特定の者の利益を図ることのないよう必要な措置を講ずることにより、区政に対する区民の信頼に応えとともに、区民が区政に対する正しい認識と自覚を持ち、もって公正で開かれた民主的な区政に寄与することを目的とする</p>
2	議会の役割	○	○	○	○	○	○	<p>【自参無】適切</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】憲法(第93条)並びに地方自治法(第89条、96条)にも明文化されているが、改めて役割を明確にすることで政治倫理条例条上の義務規定を求める事ができるため</p>	
3	議員の責務	○	○	△	○	○	○	<p>【自参無】適切</p> <p>【公明】事件があった江東区だからこそ、会津若松市の条文を引用</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p>	<p>【公明】議員は、法令、条例等を遵守し、区政にかかわる権能と責務を深く自覚し、政治倫理基準を遵守して活動しなければならない。</p> <p>2 議員は自ら研鑽を積み、資質を高めるとともに、区民の信頼に値する倫理性を自覚し、区民のお手本となるようその品位の保持に努めなければならない。</p> <p>【無所属】議員は、区民の信頼に値する倫理性を自覚し、区民に対し自らすすんでその高潔性を明らかにしなければならない</p>
4	区民の役割	△	○	○	○	○	○	<p>【自参無】項目自体が必要か疑問</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p>	<p>【無所属】区民は、主権者として区政に参加し、公共の利益を実現する自覚を持ち、議員に対しその権限又は地位の影響力を不正に行使させるような働きかけをしてはならない</p>
5	政治倫理規準	○	○	○	○	○	○	<p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】国会議員に対して国会法で定められている「政治倫理綱領」と「行為規範」同様に、地方議員として遵守すべき行為規範を定めるものとして必要</p>	
	①信用失墜行為の禁止	△	○	△	△	○	○	<p>【公明】議員として律していく言葉を入れる。</p> <p>【共産】「著しく影響を与え」との文言はいまいである。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】抽象的で訓示的であっても原則的な規定として必要</p>	<p>【自参無】2行目 著しく は削除すべき</p> <p>【公明】区政運営若しくは議会運営に著しく影響を与え、又は区民の信用若しくは信頼を著しく失墜される行為や地位を利用した行為などを行わないこと。</p> <p>【共産】「区民全体の代表者として、品位と名誉を損なう一切の行為を慎み、その職務に関し、不正の疑惑を持たれる恐れのある行為を行わないこと。」との記載に変更してはどうか。</p>
	②契約における不正な働きかけの禁止	△	○	○	△	○	○	<p>【自参無】会派内で賛否意見が分かれる契約事務は執行部の範疇となることから、議員による提案・紹介活動を「特定の個人一団体」のために有利になる活動とは断言できないのでは。議会側だけでなく執行部側の倫理規定が必要となる。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】契約にかかる権限は議会(議員)に一切なく、契約に繋がる様な働きかけは一切慎むべきだと考える。参考程度の情報提供以外に、行政側への働きかけを行う事を禁止とすべき。</p>	<p>【自参無】条文において、区政の発展に資する提案活動については担保されるべき</p> <p>【共産】「指定管理者の指定」についても明記すべき。</p>
	③不当な影響力行使の禁止	○	○	△	△	○	○	<p>【自参無】適切</p> <p>【公明】職務執行への不当介入と職員の採用に関しても触れるべきでは。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】職員の職務執行への不当介入の禁止」と併せて必要</p>	<p>【公明】区職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、または拠出している団体及び指定管理者の職員に対し、公正な職務執行を妨げ、不正に行使するような働きかけをしないこと。また職員の採用や異動への不正介入や昇任もしくは人事異動に関し、推薦や紹介をしないこと。</p> <p>【共産】職員採用等のあっせん禁止についても明記すべき。</p>
	④地位を利用した金品等授受の禁止	○	○	○	○	○	○	<p>【自参無】適切</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】たとえ刑法上の収賄罪に当たらなくても、公職者がその地位を利用して金品を授受することは公正な職務の執行を損ない、不正の疑惑を持たれるおそれのある行為に抵触するため</p>	
	⑤道義的批判を受ける寄附等の自粛	×	○	○	○	○	○	<p>【自参無】「政治的・道義的な批判」が客観的に判断が困難。政治資金規正法において規定されている。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】法律では一定の企業献金を禁じている一方で、政党や政治団体の寄付金の授受は認めている。政党支部が受けた企業献金を議員の資金管理団体に移す「迂回献金」が多発しているため、違法性がなくとも政治的・道義的に正される必要があると考える。</p>	<p>【無所属】政治活動に関して企業、団体から寄付を受けないこととし、資金管理団体についても政治的又は道義的批判を受けるおそれのある寄附を受けないこと</p>

政治倫理条例の条文構成に対する意見一覧

番号	項目	要否						〇、×、△の理由	〇、△の場合の条文の中身等についての意見
		自 参 無	新 時 代	公 明	共 産	維 新	無 所 属		
	⑥人権侵害のおそれのある行為の禁止	○	○	△	○	○	△	<p>【自参無】適切</p> <p>【公明】⑥と⑦を合わせて人権侵害の恐れのある行為や名誉棄損行為、守秘義務違反をしないこと。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】人権侵害行為には人権侵害行為を行うことの煽動、第三者の行った人権侵害行為に対する賛成の意見の表明その他の人権侵害行為を助長する行為が含まれ、特定の行為を規定することが難しいため協議が必要</p>	<p>【公明】人権侵害の恐れのあるすべてのハラスメント行為をしないこと。情報発信において虚偽や誹謗中傷の発言で他人の名誉を棄損し、あるいは人格を損なう一切の行為をしないこと。また非公開の会議の内容に関する情報を発信しないこと。</p> <p>【無所属】基本的なものとしては「セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、その他の人権侵害のおそれのある行為」</p>
	⑦名誉棄損行為の禁止	×	○	△	△	○	△	<p>【自参無】「虚偽」をどのように認定するのか。⑥の規定で十分ではないか。ガイドライン制定などで対処すべきでは。</p> <p>【公明】⑥と⑦を合わせる守秘義務違反を入れる。</p> <p>【共産】何が「誹謗中傷」にあたるかは判断が難しいので、乱用を防ぐため、禁止事項を明確にすべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】議員の責務として含める場合不要と考える</p>	<p>【無所属】Ex. 市民全体の代表者として、名誉と品位を損なうような一切の行為を慎み…</p>
	⑧反社会的な団体等との関わりの禁止	×	○	○	○	○	○	<p>【自参無】反社会的団体の特定はどのようにするのか。江東区暴力団排除条例で対処すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p>	<p>【無所属】暴力団等反社会的勢力を利用しない、暴力団等反社会的勢力に利用されない、又は暴力団等反社会的勢力に関与しないこと</p>
	⑨その他法令等違反の禁止	×	×	○	○	○	△	<p>【自参無】内容がはっきりとしない</p> <p>【新時代】前提が当然のことであるので明記する必要なし。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】まずは条例制定を進め、その後の改正毎に協議する必要があると考えます</p>	
6	兼業の報告義務	△	○	△	△	○	○	<p>【自参無】疑いが生じる前の報告であることから○。</p> <p>【公明】北区のように企業等の役員になっている場合に関しても、報告の義務付けは必要と考える。研修の中で江東区でも透明性の確保は必要との観点から。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】中立公平である事を担保させる為必要</p>	<p>【自参無】区に関わる法人に限定すべき。議員本人のみ報告とすべき。</p> <p>【新時代】議員のみ、改選時と変化があった際に報告。オーナーや株主となった場合の対応はどう考えるか？</p> <p>【公明】議員は、毎年4月1日において企業その他の団体の役員、顧問その他の職に就いている場合には、当該団体の名称及び住所並びに当該職名を記載した兼業・兼職報告書を同月2日から同月30日までの間に、議長に提出しなければならない。なお、兼業・兼職報告書の内容に変更が生じた場合は、兼業・兼職変更届を速やかに議長に提出しなければならない。</p> <p>2 議長は、前項の規定により提出された兼業報告書を、当該報告書を提出した議員の在任期間中、区民の閲覧に供しなければならない。</p> <p>【共産】「指定管理者の指定」を受けた場合についても加えるべき。</p>
7	住民・議員の調査請求	○	○	○	△	△	△	<p>【公明】区民100人以上、議員は1/8以上でよいのではないか</p> <p>【共産】請求期限は1年では短すぎる。</p> <p>【無所属】住民の調査請求権は必要。議員の調査請求権を認めると多数派による議会統制に悪用される恐れがあるため反対。</p>	<p>【自参無】調査請求に要する連署 議員：定数の1/8以上、住民：選挙権を有する区民2000人以上</p> <p>【新時代】事務監査請求に合わせて1/50で設定。</p> <p>【公明】100人以上でも対応は大変と考える。</p> <p>【共産】区民が請求できる人数については、事務監査請求の「有権者の50分の1以上」を当てはめてはどうか。議員については、懲罰動議提出の8分の1を参考にすべき。請求期限は設けず、いつでも行えるようにし「任期中」とした場合、4年ではなく、議員の職にある間は請求できるとすべき。</p> <p>【維新】4（調査請求の期限）は削除</p> <p>【無所属】情報開示請求や住民監査請求同様に、選挙権を有する市民1人以上とする。請求権の濫用を防ぐために、請求要件に「疎明資料」の添付を義務付ける。</p>
8	政治倫理審査会	○	○	△	△	△	○	<p>【公明】○資産報告書の提出を当該議員に審査会から求めることを入れる。○臨時的か常設型は、臨時では外部有識者の対応が難しいため、常設の方が対応しやすいのではと考える。多摩市では、常設で任期が2年間。任期ごとに調査請求がなかった場合、任命で2年に1度審査会を開催し、1度だけ報償が発生。外部有識者や市民公募、元市職員などで行っている。第三者での審査会が必要も議員が一部は対応している議会が多い。川越市では、臨時で行い、外部有識者を入れているが議員も委員を担っている。○審査会委員は10名以上のところもあるが、5名ぐらいで1～2名を有識者、2名を区民公募、1～2名を議員でもよいのでは。</p> <p>【共産】公平性・公正性をきすために、構成員は議員以外とすべき。</p> <p>【無所属】会員は議員を含めず、選挙権を持つ区民と有識者で組織される必要がある。</p>	<p>【自参無】審査会は非常設。調査請求が成立した際に議長から委嘱。構成は議員・区民・有識者で構成（定数を10人程度 議員4人程度 区民と識見者で6人程度）</p> <p>【新時代】議員を除いた第三者会を設置すべき</p> <p>【公明】審査会が事案解明のため必要と認めた場合において、審査対象議員に対し、資産報告書の提出を求めることができる、という文面を追加する</p> <p>【共産】議長の諮問機関として、司法、会計等の専門家、および公募区民による常設の審査会を設置し、報償費を支払うこととすべき。議員は構成員からは除外すべき。審査期限は60日以内とすべき。</p> <p>【維新】委員は区民と有識者が半数以上を占めるのが適当</p>

政治倫理条例の条文構成に対する意見一覧

番号	項目	要否						〇、×、△の理由	〇、△の場合の条文の中身等についての意見
		自 参 無	新 時 代	公 明	共 産	維 新	無 所 属		
9	議会の措置	△	○	○	△	○	○	<p>【新時代】議会の権能としてあるべき。</p> <p>【公明】無いと注意や勧告にとどまってしまう。資産公開の効果は僅かかもしれないが、含めた方がより良い執行になると考える</p> <p>【共産】議長個人の判断ではなく、議会として行う措置であることを明記すべき。</p> <p>【無所属】審査会等の意見書を反映し、都度措置を協議する内容とするのが良いと考える。</p>	<p>【自参無】措置を講ずるのは議会とすべき 実効性の観点から「議会は区民の信頼を回復するために必要な措置を講ずる」とするべき</p> <p>【共産】議会の措置の主語は「議長」ではなく「議会」にすべき。議会だより、HPでの公表を加えるべき。</p> <p>【維新】1 (3) は墨田区を参考にしたい。</p>
10	請負等の制限	×	×	○	○	○	○	<p>【自参無】地方自治法に準拠した請負は認めるべき。災害協定に基づく請負も想定される。6. 兼業報告で賄える。</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【共産】区民から疑惑を持たれないため辞退すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】地方自治法にも規定されているが、配偶者や親族の請負を禁じていないため代表者の名義替えが横行している。よって、自治法の請負禁止規定を尊重し、努力規定として条例項目に入れるべき。</p>	
11	指定管理者の指定辞退	×	×	○	○	○	○	<p>【自参無】同上</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【共産】区民から疑惑を持たれないため辞退すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】努力規定ではなく義務規定として必要であると考え、努力義務でなければ憲法違反(企業の契約の自由、営業の自由)の疑義が生じるとの説がある。(他自治体でも義務規定の事例なし)</p>	
12	依頼等の記録義務	×	×	×	×	△	×	<p>【自参無】政治倫理基準③の規定で足りる。区側において規定済</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】不正な働き掛け等が区職員にあった場合は、区職員が記録表を作成することになっているため。</p> <p>【共産】基本的な議員活動を逐一報告することになり、適切ではないと考える。</p> <p>【維新】区職員が作成する記録表で足りる可能性があり、その場合は不要(×)。</p> <p>【無所属】行政側で口利き記録制度が導入されている為、不要と考えます。</p>	
13	資産公開	×	×	△	○	×	○	<p>【自参無】意義がない</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】全議員が対象ではなく審査会が必要と認めた場合のみ当該議員に求めることができるとしたい。</p> <p>【共産】資産公開を行うことにより、不正の防止につながると考える。</p> <p>【維新】不正防止に効果があるとは言えない。</p> <p>【無所属】贈収賄を防止する為、また「政治倫理の確立のための国会議員の資産等の公開等に関する法律」に基づき、公職者の適格性を審査するために必要。配偶者等の資産報告は都議会では既に導入されている。</p>	
14	問責制度	×	×	×	△	×	○	<p>【自参無】司法判断が待たれるタイミングで実効性に欠ける。司法判断後においても出処進退は議員本人が決めるべき</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】昨年江東区議会では、汚職防止対策等検討会において、議員報酬及び費用弁償に関する条例の改正を行っているため。</p> <p>【共産】説明責任を果たすことは重要である。</p> <p>【維新】釈明の必要性はない。</p> <p>【無所属】司法判断とは別に、区議会としての信頼回復をはかり、事件の被疑者・被告人が住民を代表する公職に留まることの政治倫理責任を問いたす必要があるため。</p>	<p>【共産】起訴された場合は、「説明会の開催を求めることができる」ではなく「開催しなければならない」とすべき。また、「開催されない場合、区民が開催を請求できる」との項目を設けるべき。</p> <p>【無所属】一般職であれば刑事事件の起訴で休職、有罪判決で免職になるのが通例であるため、議員も同様に問責事由は刑事事件とする。また、推定無罪の原則に則り、逮捕後の説明会は被疑者の申し出による開催を原則として、区民は起訴後に説明会の開催を請求する事ができる様にする。</p>
	その他必要な項目【誓約書】						○	<p>【無所属】全議員に政治倫理条例の遵守を誓約させる上で必要と考えます。</p>	

【自由意見欄】

【新時代】〇心無い元議員の身勝手な行動から今回の条文作成に至ったと認識している。本来は議員一人ひとりが議会人として高い倫理意識を持ち、職務を遂行していれば起こり得ない事案である。故に政治倫理条例は最低限のものでよいと考えている。政治倫理基準に関しては事務局が案として示して頂いたものを参考とさせて頂いております。これに即して進めるべきとの考えです。〇ソーシャルメディア運用ガイドラインの設置時代に即して準備をする必要があると考える。

【無所属】

政治的な采配や条例の悪用を防ぐ為、審査会の構成は議員が入らず、「社会的信望があり、地方行政に関し識見の高いものの中から議長が委嘱」する多摩市議会形式を採用すべき。また、審査会の審議は原則公開とし、傍聴については本会議同様の規定を設けるべきと考えます。

江東区議会議員政治倫理条例の条文構成例について

1 目的

【条文例】

この条例は、江東区議会（以下「議会」という。）及び江東区議会議員（以下「議員」という。）が区民の代表として人格及び倫理の向上に努め、その権限又は地位に基づく影響力を不正に行使して自己又は特定の者の利益を図ることのないよう政治倫理に関する基準を定めることにより、区政に対する区民の信頼に応えるとともに、公正で開かれた区政の発展に寄与することを目的とする。

Point

- ・議員の倫理向上に係る規定を作り、区民の信頼に応え、開かれた区政の発展に寄与するように、条例の目的を定める。

2 議会の役割

【条文例】

議会は、前条の目的を達成するため、議員の政治倫理向上に資する取組を進めるとともに、区民に対する説明責任を果たし、並びに公正性及び透明性を確保しなければならない。

Point

- ・政治倫理の向上のために議会が果たす役割について定める。

参考

令和5年5月8日施行による法改正により、議決権等の議会の役割及び住民の負託を受け、誠実に職務を行わなければならないという議員の職務が規定された(地方自治法第89条)。

3 議員の責務

【条文例】

議員は、法令、条例等を遵守し、区民の代表として区政にかかわる権能と責務を深く自覚し、政治倫理基準を遵守して活動しなければならない。

2 議員は、議会及び議員の活動を積極的に区民に明らかにし、自ら率先して説明責任を果たさなければならない。

Point

- ・議員は政治倫理基準を遵守して活動するということを定める。
- ・議員は区民に対して説明責任を果たすということを定める。

4 区民の役割

【条文例】

区民は、議員に対し、政治倫理基準を逸脱するいかなる行為も求めてはならない。
2 区民は、区民の代表たる議員の活動及び政治姿勢に注目し、議員に対し、説明を求めることができる。

Point

- ・区民は議員に政治倫理基準を逸脱する行為を求めないことを定める。
- ・議員に説明を求めることができるという、区民の役割を定める。

5 政治倫理基準

【条文例】

議員は、常に人格及び倫理の向上に努め、次に掲げる政治倫理基準を遵守しなければならない。

①信用失墜行為の禁止	区政運営若しくは議会運営に著しく影響を与え、又は区民の信用若しくは信頼を著しく失墜させる行為を行わないこと。
	例) 政務活動費の不正使用。贈収賄等の犯罪行為。議会活動内外での不祥事。
②契約における不正な働きかけの禁止	区が行う委託、請負その他の契約に関し、特定の個人、企業又はその他の団体のために、有利又は不利な取り計らいをしないこと。
	例) 契約に関し、特定の個人又は企業が有利となるように入札予定価格を聞き出すなど、職員へ働きかける行為。
③不当な影響力行使の禁止	区職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、又は拠出している団体及び指定管理者の職員に対し、その権限又は地位を利用することにより、公正な職務執行を妨げ、又は職権を不正に行使するよう働きかけをしないこと。
	例) 職員の採用、異動等に関して不正に介入する行為。特定の者に対して有利又は不利な状況となる政策立案中の資料等の提供を職員へ求める行為。

④地位を利用した金品等授受の禁止	その権限又は地位を利用して、職務の公正を疑われるような、いかなる金品等も授受しないこと。
例) 口利きによる報酬を得る行為。実働のない顧問料等を授受する行為。	
⑤道義的批判を受ける寄附等の自粛	政治資金規正法（昭和 23 年法律第 194 号）等の法令に違反する寄附等のほか、政治活動に関し、政治的又は道義的な批判を受けるおそれのある寄附等を受けないこと。
例) 法令に違反しないとしても、区民に不信感を与えかねないような寄付を受ける行為。	
⑥人権侵害のおそれのある行為の禁止	その権限又は地位を利用して、嫌がらせをし、強制し又は強要し、若しくは圧力をかけるなど、人権侵害のおそれのある全てのハラスメント行為をしないこと。
例) パワーハラスメント、セクシャルハラスメントなどの行為。	
⑦名誉棄損行為の禁止	報告会、チラシ及び SNS 等を利用した情報発信により、虚偽の事実を提示または誹謗中傷の発言をするなどし、他人の名誉を毀損し、あるいは人格を損なう一切の行為をしないこと、又は第三者をして同様の行為をさせないこと。
例) SNS 等で虚偽の事実を発信し、特定の個人の誹謗中傷発言をする行為。	
⑧反社会的な団体等との関わりの禁止	反社会的勢力を利用し、若しくは反社会的勢力に利用され、又は反社会的勢力の活動に関与しないこと
例) 暴力団など反社会的な団体又は個人と関わりを持つ行為。	
⑨その他法令等違反の禁止	上記に掲げるもののほか、法令その他の規程に違反しないこと。

2 議員は、政治倫理基準に反する事実があるとの疑惑を持たれたときは、自ら誠実な態度をもって、真相を明らかにするとともに、区民並びに議会に対して説明責任を果たさなければならない。

※上記、各政治倫理基準の条文例下段に記載している違反の例は条文には入らない。

Point

- ・議員が遵守すべき政治倫理基準を定める。
- ・疑惑を持たれた議員は、自らその説明責任を果たさなければならないということを定める。
- ・上記、政治倫理基準の①～⑥について規定している自治体が比較的多い。

参考

墨田区：①信用失墜行為の禁止③不当な影響力行使の禁止④地位を利用した金品等授受の禁止⑤道義的批判を受ける寄附等の自粛⑥人権侵害のおそれのある行為の禁止⑦名誉棄損行為の禁止、ほか、納税・保険料の納付の行う旨を規定。

北 区:①信用失墜行為の禁止②契約における不正な働きかけの禁止④地位を利用した金品等授受の禁止⑤道義的批判を受ける寄附等の自粛⑩採用等への不正な働きかけの禁止、ほか、請負について疑念をいだかせない旨を規定
新宿区:③不当な影響力行使の禁止⑥人権侵害のおそれのある行為の禁止

6 兼業の報告義務

【条文例】

議員は、自らが区に対し請負をする場合や、主として収益事業を営む法人、区の許認可が必要な事業を営む法人又は区から補助金等を受け、若しくは受けようとする法人等の役員、顧問若しくはこれらに準ずる職に就いた場合（既に就いている場合を含む。）には、議長に対し速やかに、別に定める兼業報告書を提出しなければならない。当該報告書の内容に変更があったときも同様とする。

2 議長は、前項の規定により提出された兼業報告書を、当該報告書を提出した議員の在任期間中、区民の閲覧に供しなければならない。

Point

- ・議員は、区民全体の奉仕者として高い倫理基準が課されていることから、兼業等の実態について明らかにするために定める。
- ・法的に、請負が全面的に禁止されているわけではないため、請負の辞退を規定するのではなく、報告を課して、区民に明らかにすることで、法律違反や不正の抑止力を持たせるように定める。
- ・配偶者も含めて報告するように定める墨田区の例もある。
- ・区と関連のない企業等の役員等になった場合も報告するように定める北区の例もある。

参考

地方公共団体からの個人の請負は禁止されていたが、令和5年3月1日施行による法改正により、年間300万円の範囲であれば可能となった。なお、従前より地方公共団体から議員が取締役等を務める法人等が請負をする場合、請負が業務の主要部分を占めなければ可能となっている（地方自治法第92条の2）。

参考

地方公共団体から補助金の交付又は指定管理者の指定を受けることは、地方自治法第92条の2の請負に該当しない（平成30年4月25日付総務省通知）。

7 住民・議員の調査請求

【条文例】

議員が政治倫理基準又は法令等に違反する行為をした疑いがあると認めるときは、請求代表者が、区民にあつては、議員の選挙権を有する者の●人以上の連署をもって、議員にあつては、議員定数の8分の1以上の者の連署をもって、議長に調査請求をすることができる。この場合において、請求代表者は、当該行為に係る資料を添付した別に定める調査請求書を、議長に提出しなければならない。

2 議長は、前項の調査請求書を受理したときは、その記載内容及び添付書面を確認し、不備があると認めるときは、相当の期間を定めて請求代表者に対し、その補正を命ずることができる。

3 議長は、調査請求の内容が政治倫理基準又は法令等に違反する行為に該当しないなど、別に定める要件を満たしていないとき、又は請求代表者が前項の補正命令に従わないときは、当該請求を却下するものとする。調査請求が不適法であつて補正することができないことが明らかなきも同様とする。

4 調査請求は、当該請求に係る行為のあつた日の翌日から起算して1年を経過したときは、することができない。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りでない。

Point

- ・政治倫理基準や法令等に違反する疑いがある場合などに、住民又は議員が、議長に対して調査を請求することができるように定める。
 - ・区民は●人以上(※1)、議員は議員定数の8分の1以上(※2)で調査請求ができることなどを定める。
- ※1 墨田区は1,000人、北区は500人、新宿区は100人。

参考

住民監査請求は1人でも可能。一方、事務監査請求は有権者の50分の1以上の連署をもって行うことが可能。政治倫理条例の調査請求に係る人数は明確な基準がない。

※2 地方自治法135条2項(懲罰の動議を議題とする場合)に準ずる。

- ・調査請求は、当該請求に係る行為のあつた日の翌日から起算して1年を経過したときは、することができない(※3)ことを定める。

※3 住民監査請求に準ずる。

8-1 審査会の設置

【条文例】

議長は、前条の調査請求が適正であると認めたときは、速やかに江東区議会議員政治倫理審査会（以下「審査会」という。）を設置し、審査を付託する。

2 審査会は、審査の対象となった議員（以下「審査対象議員」という。）を除く、議長が委嘱する議員●人をもって組織する。

3 審査会には委員の互選により委員長及び副委員長を置く。

4 委員の任期は、前条の調査請求に係る審査が終了するまでとする。

Point

- ・住民又は議員からの調査請求がある場合に調査や審査を行う機関を設置するために定める。
- ・地方自治法第138条の4に、執行機関(行政側)に附属機関を設置できる規定があるが、議会に附属機関を設置できる規定がなく、議会に外部の有識者を入れて構成する「第三者機関」を設置することは想定されていないと解釈されている。
- ・したがって、議員のみで構成する特別委員会を設置する墨田区の例や、審査会は議員のみで構成し、必要に応じて地方自治法第100条の2により、外部有識者に調査をさせる規定を置く伊勢市の例がある。

参考

墨田区：調査請求が適正であると認めたときは、議会の議決により議員政治倫理調査特別委員会を設置し、審査会の委員の定数は8人とする。

北 区：2年任期で審査会を置く。委員は13人とし、8人を議員、5人を区民及び識見を有する者から、議長が委嘱する。

新宿区：2年任期で審査会を置く。委員は8人とし、3人を議員、3人を区民、2人を識見を有する者から、議長が委嘱する。

伊勢市：調査請求があったときは、伊勢市議会議員政治倫理審査会を設置し、審査会の委員の定数は9人以内とする。必要に応じて地方自治法第100条の2により、外部有識者に調査をさせることができる。

8-2 審査会の審査

【条文例】

審査会は、審査事案の審査を付託されたときは、政治倫理基準違反行為の存否及び条例に定める措置について審査及び決定する。

2 審査会は、前項の審査を行うため、審査対象議員又は関係人に対し、事情聴取等必要な調査をすることができる。

3 審査対象議員は、審査会から審査に必要な資料の提出又は審査会への出席要求が

ある場合、それに従わなければならない。

- 4 審査会は、審査に際し、審査対象議員に書面又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。
- 5 審査会は、審査に必要があるときには、地方自治法第 100 条の 2 の規定により、識見を有する者に事案について調査させるものとする。
- 6 審査会は、審査付託の日から●日以内に、議長に対し審査結果を報告するように努めるものとする。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りでない。
- 7 審査会は、審査対象議員が政治倫理基準又は法令等に違反していると認められる場合は、議長に対して必要な措置を講じるよう求めるものとする。

Point

- ・審査会に審査が付託された際に、審査に必要な事項を定める。
- ・審査会が審査対象議員又は関係人に対し、事情聴取等必要な調査をすることができることを定める。
- ・審査に際し、審査対象議員に弁明の機会を与える(※1)ことなどを定める。
 - ※1 墨田区は弁明の機会を必ず与える。北区・新宿区は審査対象議員の請求による。
- ・議会に附属機関を設置することは想定されていないという解釈から、必要に応じて地方自治法第 100 条の 2 の規定により、識見を有する者に事案について調査させることを定める。
- ・審査会が審査付託の日から●日以内(※2)に、議長に対し審査結果を報告するように努めるというように審査期日を定める。

※2 墨田区・新宿区は 60 日、北区は 90 日

参考

住民監査請求は監査委員が監査する場合 60 日以内、弁護士等の外部監査人に個別監査を請求した場合は 90 日以内に監査を行う。

9-1 議会の措置

【条文例】

議長は、審査会より報告を受け、前条 7 項に基づく求めがあったときは、以下の措置を決定し、速やかに請求代表者及び審査対象議員に対し、その内容を文書で通知するものとする。なお、2 以上の措置を併せて講ずることを妨げない。

- (1) 議場における議長による注意
- (2) 議会・委員会等の一定期間の出席停止勧告
- (3) 議長・委員長等の役職辞任勧告
- (4) 議員辞職勧告

2 議長は、審査会より審査対象議員に政治倫理基準又は法令等に違反していないと

報告を受けたときは、速やかに請求代表者及び審査対象議員に対し、その内容を文書で通知し、対象議員の名誉を回復する措置を決定するものとする。

Point

- ・審査会より議長が報告を受けた際に、講じる措置について必要な事項を定める。
- ・(1)(2)(4)については、地方自治法135条1項(懲罰の種類)に準ずる。
- ・(3)は他自治体の例による。

参考

墨田区：特別委員会が措置 (1) 議場における議長の注意、(2) 議場における謝罪文の朗読、(3) 一定期間の出席停止勧告、(4) 議会の特別委員の辞任勧告、(5) 議長等の役職辞任勧告、(6) 議員の就任する附属機関委員の辞任勧告、(7) 議員辞職勧告

北 区：議会が措置 区民の信頼を回復するために必要と認められる措置を講ずるとし、具体的な措置を明記していない。

新宿区：議会が措置 区民の信頼を回復するために必要と認められる措置を講ずるとし、具体的な措置を明記していない。

府中市：議長が措置 区民の信頼を回復するために必要と認められる措置を講ずるとし、具体的な措置を明記していない。

9-2 審査結果の公表

【条文例】

議長は、前条の措置を行ったときは、その内容をホームページ等で公表するものとする。

Point

- ・前条における措置を講じた場合に、議長がホームページ等で公表すること定める。

10 請負の辞退

【条文例】

議員は、区に対する請負（業として行う工事の完成若しくは作業その他の役務の給付又は物件の納入その他の取引で当該普通地方公共団体が対価の支払をすべきものをいう）を辞退し、もって区民に疑惑を生じさせないように努めるものとする。

2 議員が主として同一の行為をする法人の無限責任社員、取締役、執行役若しくは監査役若しくはこれらに準ずべき者、支配人及び清算人たる場合も前項と同様とする。

3 前2項の規定は、災害等で緊急を要するときは、この限りでない。

Point

- ・地方自治法92条の2は、議員が当該自治体に対して政令で定める額を超えて請負をすること、又は役員等を務める法人が当該自治体と業務の主要部分を占める請負をすることについて禁止している。これらを踏まえて、法律で禁止されている事項以外に区民の疑念を招かぬように請負について辞退するように努める旨を定める。
- ・配偶者も含めて辞退するように定める墨田区の例もある。

参考

地方公共団体からの個人の請負は禁止されていたが、令和5年3月1日施行により法改正により、年間300万円の範囲であれば可能となった。なお、従前より地方公共団体から議員が取締役等を務める法人等が請負をする場合、請負が業務の主要部分を占めなければ可能となっている(地方自治法第92条の2)。

参考

地方公共団体から補助金の交付又は指定管理者の指定を受けることは、地方自治法第92条の2の請負に該当しない(平成30年4月25日付総務省通知)。

11 指定管理者の指定の辞退

【条文例】

議員は、前条に規定する企業に関係する場合、当該企業が地方自治法第244条の2第3項に規定する指定管理者とならないよう努めるものとする。ただし、他に適当な指定管理者がない等やむを得ない事情のあるときは、この限りでない。

Point

- ・請負辞退の規定における趣旨と同様、議員が役員で、経営方針や主要な取引に関与をするなど、実質的に経営に携わっている企業は指定管理者とならないように努め、区民の疑念を招かぬように定める。
- ・配偶者も含めて辞退するように定める墨田区の例もある。

参考

地方公共団体から補助金の交付又は指定管理者の指定を受けることは、地方自治法第92条の2の請負に該当しない(平成30年4月25日付総務省通知)。

12 依頼等をしたときの記録義務

【条文例】

議員は、区の職員又は出資団体等若しくは指定管理者の役職員に対し、その職務に関し、口頭又は文書により意見を伝え、要望し、又は依頼をしたときは、口頭による場合はその内容を記録した文書を、文書による場合はその文書の写しを、依頼等をした日から10日以内に議長に提出しなければならない。ただし、公開の場等で依頼等をしたとき又は軽易な事項について依頼等をしたときは、この限りでない。

Point

- ・議員が区職員等に依頼等をした時に議員が記録する義務を規定するもの。日時及び依頼の内容等を記載した対応記録を作成することを明記し、情報公開できるように定める。
- ・23区では新宿区、全国では会津若松市が規定している例がある。
- ・江東区では、令和5年5月1日に「一定の公職にある者等からの不正な働きかけ等に関する取扱規程」を施行し、区職員が議員等から不正な働きかけ等があった場合に、その働きかけ等について区職員が記録表を作成することなどを定めた。

13 資産公開

【条文例】

(資産報告書等の提出)

議員は、その任期開始の日において有する次の各号に掲げる資産等について、当該資産等の区分に応じ当該各号に掲げる事項を記載した資産等報告書を、任期開始の日から起算して100日を経過する日までに、議長に提出しなければならない。

- (1) 土地（信託している土地を含む。）所在、面積及び固定資産税の課税標準額並びに相続（被相続人からの遺贈を含む。）により取得した場合は、その旨
- (2) 建物の所有を目的とする地上権又は土地の賃借権 当該権利の目的となっている土地の所在及び面積並びに相続により取得した場合は、その旨
- (3) 建物 所在、床面積及び固定資産税の課税標準額並びに相続により取得した場合は、その旨
- (4) 預金（当座預金及び普通預金を除く。）及び貯金（普通貯金を除く。） 預金及び貯金の額
- (5) 有価証券（金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第2条第1項及び第2項に規定する有価証券に限る。）種類及び種類ごとの額面金額の総額（株券にあっては、株式の銘柄及び株数）
- (6) 自動車、船舶、航空機及び美術工芸品（取得価格が100万円を超えるものに限る。）種類及び数量

(7) ゴルフ場の利用に関する権利（譲渡することができるものに限る。） ゴルフ場の名称

(8) 貸付金（生計を一にする親族に対するものを除く。） 貸付金の額

(9) 借入金（生計を一にする親族からのものを除く。） 借入金の額

2 議会の議員は、その任期開始の日後毎年新たに有することとなった前項各号に掲げる資産等であって12月31日において有するものについて、当該資産等の区分に応じ同項各号に掲げる事項を記載した資産等補充報告書を、その翌年の4月1日から同月30日までの間に、議会の議長に提出しなければならない。

(所得等報告書の提出)

議員は、次に掲げる金額及び課税価格を記載した所得等報告書を、毎年、4月1日から同月30日までの間（当該期間内に任期満了又は議会の解散による任期終了により議会の議員でない期間がある者で当該任期満了又は議会の解散による選挙により再び議会の議員となったものにあつては、同月1日から再び議会の議員となった日から起算して30日を経過する日までの間）に、議長に提出しなければならない。

(1) 前年分の所得について同年分の所得税が課される場合における当該所得に係る次に掲げる金額（当該金額が100万円を超える場合にあっては、当該金額及びその基となった事実）

ア 総所得金額（所得税法（昭和40年法律第33号）第22条第2項に規定する総所得金額をいう。）及び山林所得金額（同条第3項に規定する山林所得金額をいう。）に係る各種所得の金額（同法第2条第1項第22号に規定する各種所得の金額をいう。）

イ 租税特別措置法（昭和32年法律第26号）の規定により、所得税法第22条の規定にかかわらず、他の所得と区分して計算された所得の金額であつて議会の議長が定めるもの

(2) 前年中において贈与により取得した財産について同年分の贈与税が課される場合における当該財産に係る贈与税の課税価格（相続税法（昭和25年法律第73号）第21条の2に規定する贈与税の課税価格をいう。）

(関連会社等報告書の提出)

議員は、毎年、4月1日において報酬を得て会社その他の法人（法人でない社団又は財団で代表者又は管理人の定めがあるものを含む。）の役員、顧問その他の職に就いている場合には、当該会社その他の法人の名称及び住所並びに当該職の名称を記載した関連会社等報告書を、同月2日から同月30日までの間（当該期間内に任期満了又は議会の解散による任期終了により議会の議員でない期間がある者で当該任期満了又は議会の解散による選挙により再び議会の議員となったものにあつては、同月2日から再び議会の議員となった日から起算して30日を経過する日までの間）に、議長に提出しなければならない。

(資産等報告書等の保存及び閲覧)

前3条の規定により提出された資産等報告書及び資産等補充報告書、所得等報告書並びに関連会社等報告書は、これらを受理した議会の議長において、これらを提出すべき期間の末日の翌日から起算して5年を経過する日まで保存しなければならない。

- 2 何人も、議長に対し、前項の規定により保存されている資産等報告書及び資産等補充報告書、所得等報告書並びに関連会社等報告書の閲覧を請求することができる。

Point

- ・議員の資産等を公開する措置を講ずること等により、政治倫理の確立を期すため定める。
- ・法律上、区議会議員の資産公開は義務ではないため23区で規定している自治体はない。
- ・市区町村長の資産公開は義務付けられていることから、江東区では、平成7年12月12日に「江東区長の資産等の公開に関する条例」を施行している。
- ・市区町村長や政令指定都市の市議会議員の資産公開条例では、主に以下4項目が規定されている。
 - 資産報告書等の提出(土地、建物、預金及び貯金、有価証券等)
 - 所得等報告書の提出(総所得金額、贈与により取得した財産等)
 - 関連会社等報告書の提出(役員等で報酬を得ている場合に法人名、住所、職名を記載)
 - 資産等報告書等の保存及び閲覧

参考

「政治倫理の確立のための国会議員の資産等の公開等に関する法律」第7条(平成5年1月1日施行)により、都道府県知事、市区町村長、都道府県議会議員、政令指定都市議会議員については、国会議員に準じて資産公開が義務付けられた(これにより、江東区長の資産公開条例が制定された)。

14 問責制度

【条文例】

議員は、刑法(明治40年法律第45号)第197条から第197条の4までの各条及び第198条に定める贈収賄罪並びに公職にある者等のあつせん行為による利得等の処罰に関する法律(平成12年法律第130号)第1条の罪(以下「職務関連犯罪」という。)による逮捕後、なお引き続きその職にとどまろうとするときは、議長に、区民に対する説明会の開催を求めることができる。

- 2 議員は、職務関連犯罪により起訴され、なお引き続きその職にとどまろうとするときは、議長に、区民に対する説明会の開催を求めることができる。この場合において、当該議員は説明会に出席し、釈明しなければならない。
- 3 議員が職務関連犯罪の罪により有罪判決の宣告を受け、その刑が確定する前で、

なお引き続きその職にとどまろうとするときの説明会の開催等については、前条の規定を準用する。

- 4 議員は、職務関連犯罪の罪により有罪判決の宣告を受け、その刑が確定したときは、公職選挙法(昭和25年法律第100号)第11条第1項の規定により失職する場合を除き、区民全体の代表者としての品位と名誉を守り、区民に対する信頼を回復するため、辞職手続きをとるものとする。

Point

- ・犯罪容疑で逮捕・起訴された議員が、引き続きその職にとどまろうとする時に説明会を開かせ釈明の機会を与えるために定める。
- ・23区で規定している自治体はない。

参考

逮捕から、有罪確定まで順を追って、釈明の機会を与える会津若松市の例がある。

- 職務関連犯罪による逮捕後の説明会
- 職務関連犯罪による起訴後の説明会
- 職務関連犯罪の有罪判決後の説明会
- 職務関連犯罪の有罪確定後の辞職措置

参考

「公職にある者等のあつせん行為による利得等の処罰に関する法律 第1条」

地方公共団体の議会の議員が、国若しくは地方公共団体が締結する売買、貸借、請負その他の契約又は特定の者に対する行政庁の処分に関し、請託を受けて、その権限に基づく影響力を行使して公務員にその職務上の行為をさせるように、又はさせないようにあつせんをすること又はしたことにつき、その報酬として財産上の利益を収受したときは、三年以下の懲役に処する。

2 地方公共団体の議会の議員が、国又は地方公共団体が資本金の二分の一以上を出資している法人が締結する売買、貸借、請負その他の契約に関し、請託を受けて、その権限に基づく影響力を行使して当該法人の役員又は職員にその職務上の行為をさせるように、又はさせないようにあつせんをすること又はしたことにつき、その報酬として財産上の利益を収受したときも、前項と同様とする。

(仮称) 江東区議会議員政治倫理条例 (案)

(目的)

第1条 この条例は、江東区議会（以下「議会」という。）及び江東区議会議員（以下「議員」という。）が区民の代表として人格及び倫理の向上に努め、その権限又は地位に基づく影響力を不正に行使して自己又は特定の者の利益を図ることのないよう政治倫理に関する基準を定めるなど、必要な措置を講ずることにより、区政に対する区民の信頼に応えとともに、公正で開かれた区政の発展に寄与することを目的とする。

(議会の役割)

第2条 議会は、前条の目的を達成するため、議員の政治倫理向上に資する取組を進めるとともに、区民に対する説明責任を果たし、並びに公正性及び透明性を確保しなければならない。

(議員の責務)

第3条 議員は、法令、条例等を遵守し、区民の代表として区政にかかわる権能と責務を深く自覚し、政治倫理基準を遵守して活動しなければならない。

2 議員は、自ら研鑽を積み、資質を高めるとともに、区民の信頼に値する倫理性を自覚し、区民の代表として名誉と品位を損なうような一切の行為を慎むよう努めなければならない。

3 議員は、議会及び議員の活動を積極的に区民に明らかにし、自ら率先して説明責任を果たさなければならない。

(区民の役割)

第4条 区民は、議員に対し、その権限又は地位の影響力を不正に行使させるよう働き掛けるなど、政治倫理基準を逸脱するいかなる行為も求めてはならない。

2 区民は、区民の代表たる議員の活動及び政治姿勢に注目するとともに、議員に対し、説明を求めることができる。

(政治倫理基準)

第5条 議員は、常に人格及び倫理の向上に努め、次に掲げる政治倫理基準を遵守しなければならない。

(1) 区政運営若しくは議会運営に著しく影響を与え、区民の信用若しくは信頼を著しく失墜させる行為又は不正の疑惑を持たれる恐れのある行為を行わないこと。

(2) 区が行う委託、請負その他の契約、若しくは指定管理者の指定に関し、その権限又は地位の影響力を不正に行使し、特定の個人、企業又はその他の団

体のために、有利又は不利な取り計らいをしないこと。

- (3) 区職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、又は
抛出している団体及び指定管理者の職員に対し、その権限又は地位を利用
することにより、公正な職務執行を妨げ、職権を不正に行使する働き掛けを
しないこと。また、職員の採用、異動及び昇任に不当に関与する行為をしな
いこと。
- (4) その権限又は地位を利用して、職務の公正を疑われるような、いかなる金
品等も授受しないこと。
- (5) その権限又は地位を利用して、嫌がらせをし、強制又は強要し、若しくは
圧力をかけるなど、人権侵害のおそれのある全てのハラスメント行為や他
人の名誉を毀損する一切の行為をしないこと、又は第三者をして同様の行
為をさせないこと。

2 議員は、政治倫理基準に反する事実があるとの疑惑を持たれたときは、
自ら誠実な態度をもって、真相を明らかにするとともに、区民並びに議会に
対して説明責任を果たさなければならない。

(兼業の報告義務)

第6条 議員は、自らが区に対し請負をする場合又は次の各号のいずれかに該
当する法人等の役員、顧問若しくはこれらに準ずる職に就いた場合（既に就
いている場合を含む。）には、議長に対し、速やかに兼業報告書を提出しな
なければならない。当該報告書の内容に変更があったときも同様とする。

- (1) 主として収益事業を営む法人等
- (2) 区の許認可が必要な事業を営む法人等
- (3) 区から補助金等を受け、若しくは受けようとする法人等
- (4) 区の指定管理者の指定を受ける法人等

2 議長は、前項の規定により提出された兼業報告書を、当該報告書を提出し
た議員の在任期間中、区民の閲覧に供しなければならない。

(調査請求)

第7条 議員が政治倫理基準又は法令等に違反する行為をした疑いがあると
認めるときは、請求代表者が、区民にあっては、議員の選挙権を有する者の
●人（●分の1）以上の連署をもって、議員にあっては、議員定数の8分の
1以上の者の連署をもって、議長に調査請求をすることができる。この場合
において、請求代表者は、当該行為に係る資料を添付した別に定める調査請
求書を、議長に提出しなければならない。

2 議長は、前項の調査請求書を受理したときは、その記載内容及び添付書面
を確認し、不備があると認めるときは、相当の期間を定めて請求代表者に対

し、その補正を命ずることができる。

- 3 議長は、調査請求の内容が政治倫理基準又は法令等に違反する行為に該当しないなど、別に定める要件を満たしていないとき、又は請求代表者が前項の補正命令に従わないときは、当該請求を却下するものとする。調査請求が不適法であって補正することができないことが明らかなきも同様とする。
- 4 調査請求は、当該請求に係る行為のあった日の翌日から起算して●年を経過したときは、することができない。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りでない。

(審査会の設置)

第8条 議長は、前条の調査請求が適正であると認めたときは、速やかに江東区議会議員政治倫理審査会（以下「審査会」という。）を設置し、審査を付託する。

- 2 審査会の委員は、審査の対象となった議員（以下「審査対象議員」という。）を除く●人以内とし、議長が委嘱する。
- 3 審査会には委員の互選により会長及び副会長を置く。
- 4 委員の任期は、前条の調査請求に係る審査が終了するまでとする。

(審査会の審査)

第9条 審査会は、審査事案の審査を付託されたときは、政治倫理基準違反行為の存否及び条例に定める措置について審査及び決定する。

- 2 審査会は、前項の審査を行うため、審査対象議員又は関係人に対し、事情聴取等必要な調査をすることができる。
- 3 審査対象議員は、審査会から審査に必要な資料の提出又は審査会への出席要求がある場合、それに従わなければならない。
- 4 審査会は、審査に際し、審査対象議員に文書又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。
- 5 審査会は、審査付託の日から●日以内に、議長に対し審査結果を報告するように努めるものとする。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りでない。
- 6 審査会は、審査対象議員が政治倫理基準又は法令等に違反していると認められる場合は、議長に対して必要な措置を講じるよう求めるものとする。

(審査結果の通知及び公表)

第10条 議長は、審査会から審査結果の報告を受けたときは、請求代表者及び審査対象議員に文書で通知するとともに、その概要をホームページ等で公表するものとする。

(議会の措置)

第11条 議会は、審査会からの報告及び勧告を受けた事項を尊重し、政治倫理基準に違反したと認められるときは、議会の名誉と品位を守り、区民の信頼を回復するために必要と認められる措置を講ずるものとする。

2 議長は、審査会より審査対象議員に政治倫理基準又は法令等に違反していないと報告を受けたときは、対象議員の名誉を回復する措置を決定するものとする。

(措置の公表)

第12条 議長は、前条の措置を行ったときは、その内容をホームページ等で公表するものとする。

(施行期日)

この条例は、令和●年●月●日から施行する。

政治倫理条例案に対する課題整理表

項目	課題	補足
兼業の報告義務	<ul style="list-style-type: none"> 区と関わりのない企業等の役員となった場合も報告対象とするか。 区民の閲覧方法をどうするか。 	<ul style="list-style-type: none"> 北区は請求があった際に区民に掲示する。 報告様式は規程で定めている自治体がほとんどである。
住民・議員の調査請求	<ul style="list-style-type: none"> 住民の調査請求について何人（何分の1）以上で可能とするか。 請求期限は設けるか。設ける場合は期限をどうするか。 調査請求の要件について、政治倫理基準以外の法令等に違反した場合を含めるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 墨田区・新宿区は1年の請求期限で、北区は期限がない。 墨田区と新宿区は法令等に違反した場合も請求対象で、北区は政治倫理基準違反のみを対象としている。 請求様式は規程で定めている自治体がほとんどである。
政治倫理審査会	<ul style="list-style-type: none"> 審査会委員の構成及び決定方法をどうするか。 審査会は臨時型か常設型か。 審査期日は何日とするか。（60日、90日など） 審査会の審議を公開するか。 	<ul style="list-style-type: none"> 川越市は議員以外が委員となるが、臨時型としている。 尼崎市は委員を何人と決めずに、12人以内としている。 常設型は案件が無くても年に1回程度会議を開き、外部有識者等に報償費を支払う例が多い。 多摩市や八王子市は審査期日を明記していない。 北区と新宿区は審査会の公開や傍聴について規程に定めている。
議会の措置	<ul style="list-style-type: none"> 「議会は区民の信頼を回復するために必要な措置を講ずる」とし、規程に具体的な措置の内容を定めるか、又は具体的な措置を明記せずに審査会で措置を決定するか。 措置の種類をどうするか。 (①議場における議長による注意 ②議会・委員会等の一定期間の出席停止勧告 ③議長・委員長等の役職辞任勧告 ④議員辞職勧告 など) 	<ul style="list-style-type: none"> 北区は措置の内容の見直しをしやすいように規程等に措置の内容を定めている。 新宿区は条例及び規程に具体的な措置を明記していない。 墨田区は条例に具体的な措置を明記しており、左記のほか、「議場における謝罪文の朗読」、「議会の特別委員の辞任勧告」などがある。

政治倫理条例の条文構成に対する検討項目

※太枠部分は条文構成に入れるか検討が必要。

番号	項目	要否						○、×、△の理由	○、△の場合の条文の中身等についての意見
		自 参 無	新 時 代	公 明	共 産	維 新	無 所 属		
1 要	目的	△	○	○	○	○	○	【共産】条例の対象は、江東区議会と江東区議会議員とすべき。 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】立法目的を明らかにし条例の内容を簡潔に示し、解釈運用の指針として必要	【自参無】4行目 区民の信頼→区民からの信頼 【無所属】この条例は、区政が区民の厳粛な信託によるものであることにかんがみ、その受託者たる区議会の議員は、区民全体の奉仕者として人格と倫理の向上に努め、いやくもその権限または地位の影響力を不正に行使して自己又は特定の者の利益を図ることのないよう必要な措置を講ずることにより、区政に対する区民の信頼に応えるとともに、区民が区政に対する正しい認識と自覚を持ち、もって公正で開かれた民主的な区政に寄与することを目的とする
2 要	議会の役割	○	○	○	○	○	○	【自参無】適切 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】憲法(第93条)並びに地方自治法(第89条、96条)にも明文化されているが、改めて役割を明確にすることで政治倫理条例上の義務規定を求める事ができるため	
3 要	議員の責務	○	○	△	○	○	○	【自参無】適切 【公明】事件があった江東区だからこそ、会津若松市の条文を引用 【維新】簡潔明瞭である。	【公明】議員は、法令、条例等を遵守し、区政にかかわる権能と責務を深く自覚し、政治倫理基準を遵守して活動しなければならない。 2 議員は自ら研鑽を積み、資質を高めるとともに、区民の信頼に値する倫理性を自覚し、区民のお手本となるようその品位の保持に努めなければならない。 【無所属】議員は、区民の信頼に値する倫理性を自覚し、区民に対し自らすすんでその高潔性を明らかにしなければならない
4 要	区民の役割	△	○	○	○	○	○	【自参無】項目自体が必要か疑問 【維新】簡潔明瞭である。	【無所属】区民は、主権者として区政に参加し、公共の利益を実現する自覚を持ち、議員に対しその権限又は地位の影響力を不正に行使させるような働きかけをしてはならない
5 要	政治倫理規準	○	○	○	○	○	○	【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】国会議員に対して国会法で定められている「政治倫理綱領」と「行為規範」同様に、地方議員として遵守すべき行為規範を定めるものとして必要	
要	①信用失墜行為の禁止	△	○	△	△	○	○	【公明】議員として律していく言葉を入れる。 【共産】「著しく影響を与え」との文言はいまいである。 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】抽象的で訓示的であっても原則的な規定として必要	【自参無】2行目 著しく は削除すべき 【公明】区政運営若しくは議会運営に著しく影響を与え、又は区民の信用若しくは信頼を著しく失墜される行為や地位を利用した行為などを行わないこと。 【共産】「区民全体の代表者として、品位と名誉を損なう一切の行為を慎み、その職務に関し、不正の疑惑を持たれる恐れのある行為を行わないこと。」との記載に変更してはどうか。
要	②契約における不正な働きかけの禁止	△	○	○	△	○	○	【自参無】会派内で賛否意見が分かれる契約事務は執行部の範疇となることから、議員による提案・紹介活動を「特定の個人一団体」のために有利になる活動とは断言できないのでは。議会側だけでなく執行部側の倫理規定が必要となる。 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】契約にかかる権限は議会(議員)に一切なく、契約に繋がる様な働きかけは一切慎むべきだと考える。参考程度の情報提供以外に、行政側への働きかけを行う事を禁止とすべき。	【自参無】条文において、区政の発展に資する提案活動については担保されるべき 【共産】「指定管理者の指定」についても明記すべき。
要	③不当な影響力行使の禁止	○	○	△	△	○	○	【自参無】適切 【公明】職務執行への不当介入と職員の採用に関しても触れるべきでは。 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】職員の職務執行への不当介入の禁止」と併せて必要	【公明】区職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、または拠出している団体及び指定管理者の職員に対し、公正な職務執行を妨げ、不正に行使するような働きかけをしないこと。また職員の採用や異動への不正介入や昇任もしくは人事異動に関し、推薦や紹介をしないこと。 【共産】職員採用等のあっせん禁止についても明記すべき。
要	④地位を利用した金品等授受の禁止	○	○	○	○	○	○	【自参無】適切 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】たとえ刑法上の収賄罪に当たらなくても、公職者がその地位を利用して金品を授受することは公正な職務の執行を損ない、不正の疑惑を持たれるおそれのある行為に抵触するため	
	⑤道義的批判を受ける寄附等の自粛	×	○	○	○	○	○	【自参無】「政治的・道義的な批判」が客観的に判断が困難。政治資金規正法において規定されている。 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】法律では一定の企業献金を禁じている一方で、政党や政治団体の寄付金の授受は認めている。政党支部が受けた企業献金を議員の資金管理団体に移す「迂回献金」が多発しているため、違法性がなくとも政治的・道義的に正される必要があると考える。	【無所属】政治活動に関して企業、団体から寄付を受けないこととし、資金管理団体についても政治的又は道義的批判を受けるおそれのある寄附を受けないこと

政治倫理条例の条文構成に対する検討項目

番号	項目	要否						○、×、△の理由	○、△の場合の条文の中身等についての意見
		自参無	新時代	公明	共産	維新	無所属		
要	⑥人権侵害のおそれのある行為の禁止	○	○	△	○	○	△	<p>【自参無】適切</p> <p>【公明】⑥と⑦を合わせて人権侵害の恐れのある行為や名誉棄損行為、守秘義務違反をしないこと。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】人権侵害行為には人権侵害行為を行うことの煽動、第三者の行った人権侵害行為に対する賛成の意見の表明その他の人権侵害行為を助長する行為が含まれ、特定の行為を規定することが難しいため協議が必要</p>	<p>【公明】人権侵害の恐れのあるすべてのハラスメント行為をしないこと。情報発信において虚偽や誹謗中傷の発言で他人の名誉を棄損し、あるいは人格を損なう一切の行為をしないこと。また非公開の会議の内容に関する情報を発信しないこと。</p> <p>【無所属】基本的なものとしては「セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、その他の人権侵害のおそれのある行為」</p>
	⑦名誉棄損行為の禁止	×	○	△	△	○	△	<p>【自参無】「虚偽」をどのように認定するのか。⑥の規定で十分ではないか。ガイドライン制定などで対処すべきでは。</p> <p>【公明】⑥と⑦を合わせる守秘義務違反を入れる。</p> <p>【共産】何が「誹謗中傷」にあたるかは判断が難しいので、乱用を防ぐため、禁止事項を明確にすべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】議員の責務として含める場合不要と考える</p>	<p>【無所属】Ex. 市民全体の代表者として、名誉と品位を損なうような一切の行為を慎み…</p>
要	⑧反社会的な団体等との関わりの禁止	×	○	○	○	○	○	<p>【自参無】反社会的団体の特定はどのようにするのか。江東区暴力団排除条例で対処すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p>	<p>【無所属】暴力団等反社会的勢力を利用しない、暴力団等反社会的勢力に利用されない、又は暴力団等反社会的勢力に関与しないこと</p>
否	⑨その他法令等違反の禁止	×	×	○	○	○	△	<p>【自参無】内容がはっきりとしない</p> <p>【新時代】前提が当然のことであるので明記する必要なし。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】まずは条例制定を進め、その後の改正毎に協議する必要があると考えます</p>	
6 要	兼業の報告義務	△	○	△	△	○	○	<p>【自参無】疑いが生じる前の報告であることから○。</p> <p>【公明】北区のように企業等の役員になっている場合に関しても、報告の義務付けは必要と考える。研修の中で江東区でも透明性の確保は必要との観点から。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】中立公平である事を担保させる為必要</p>	<p>【自参無】区に関わる法人に限定すべき。議員本人のみ報告とすべき。</p> <p>【新時代】議員のみ、改選時と変化があった際に報告。オーナーや株主となった場合の対応はどう考えるか？</p> <p>【公明】議員は、毎年4月1日において企業その他の団体の役員、顧問その他の職に就いている場合には、当該団体の名称及び住所並びに当該職名を記載した兼業・兼職報告書を同月2日から同月30日までの間に、議長に提出しなければならない。なお、兼業・兼職報告書の内容に変更が生じた場合は、兼業・兼職変更届を速やかに議長に提出しなければならない。</p> <p>2 議長は、前項の規定により提出された兼業報告書を、当該報告書を提出した議員の在任期間中、区民の閲覧に供しなければならない。</p> <p>【共産】「指定管理者の指定」を受けた場合についても加えるべき。</p>
7 要	住民・議員の調査請求	○	○	○	△	△	△	<p>【公明】区民100人以上、議員は1/8以上でよいのではないか</p> <p>【共産】請求期限は1年では短すぎる。</p> <p>【無所属】住民の調査請求権は必要。議員の調査請求権を認めると多数派による議会統制に悪用される恐れがあるため反対。</p>	<p>【自参無】調査請求に要する連署 議員：定数の1/8以上、住民：選挙権を有する区民2000人以上</p> <p>【新時代】事務監査請求に合わせて1/50で設定。</p> <p>【公明】100人以上でも対応は大変と考える。</p> <p>【共産】区民が請求できる人数については、事務監査請求の「有権者の50分の1以上」を当てはめてはどうか。議員については、懲罰動議提出の8分の1を参考にすべき。請求期限は設けず、いつでも行えるようにし「任期中」とした場合、4年ではなく、議員の職にある間は請求できることとすべき。</p> <p>【維新】4（調査請求の期限）は削除</p> <p>【無所属】情報開示請求や住民監査請求同様に、選挙権を有する市民1人以上とする。請求権の濫用を防ぐために、請求要件に「疎明資料」の添付を義務付ける。</p>
8 要	政治倫理審査会	○	○	△	△	△	○	<p>【公明】○資産報告書の提出を当該議員に審査会から求めることを入れる。○臨時的か常設型は、臨時では外部有識者の対応が難しいため、常設の方が対応しやすいのではと考える。多摩市では、常設で任期が2年間。任期ごとに調査請求がなかった場合、任命で2年に1度審査会を開催し、1度だけ報償が発生。外部有識者や市民公募、元市職員などで行っている。第三者での審査会が必要も議員が一部は対応している議会が多い。川越市では、臨時で行い、外部有識者を入れているが議員も委員を担っている。○審査会委員は10名以上のところもあるが、5名ぐらいで1~2名を有識者、2名を区民公募、1~2名を議員でもよいのでは。</p> <p>【共産】公平性・公正性をきすために、構成員は議員以外とすべき。</p> <p>【無所属】会員は議員を含めず、選挙権を持つ区民と有識者で組織される必要がある。</p>	<p>【自参無】審査会は非常設。調査請求が成立した際に議長から委嘱。構成は議員・区民・有識者で構成（定数を10人程度 議員4人程度 区民と識見者で6人程度）</p> <p>【新時代】議員を除いた第三者会を設置すべき</p> <p>【公明】審査会が事案解明のため必要と認めた場合において、審査対象議員に対し、資産報告書の提出を求めることができる、という文面を追加する</p> <p>【共産】議長の諮問機関として、司法、会計等の専門家、および公募区民による常設の審査会を設置し、報償費を支払うこととすべき。議員は構成員からは除外すべき。審査期限は60日以内とすべき。</p> <p>【維新】委員は区民と有識者が半数以上を占めるのが適当</p>

政治倫理条例の条文構成に対する検討項目

番号	項目	要否						〇、×、△の理由	〇、△の場合の条文の中身等についての意見
		自 参 無	新 時 代	公 明	共 産	維 新	無 所 属		
9 要	議会の措置	△	○	○	△	○	○	<p>【新時代】議会の権能としてあるべき。</p> <p>【公明】無いと注意や勧告にとどまってしまう。資産公開の効果は僅かかもしれないが、含めた方がより良い執行になると考える</p> <p>【共産】議長個人の判断ではなく、議会として行う措置であることを明記すべき。</p> <p>【無所属】審査会等の意見書を反映し、都度措置を協議する内容とするものが良いと考える。</p>	<p>【自参無】措置を講ずるのは議会とすべき 実効性の観点から「議会は区民の信頼を回復するために必要な措置を講ずる」とするべき</p> <p>【共産】議会の措置の主語は「議長」ではなく「議会」にすべき。議会だより、HPでの公表を加えるべき。</p> <p>【維新】1(3)は墨田区を参考にしたい。</p>
10	請負等の制限	×	×	○	○	○	○	<p>【自参無】地方自治法に準拠した請負は認めるべき。災害協定に基づく請負も想定される。6. 兼業報告で賄える。</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【共産】区民から疑惑を持たれないため辞退すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】地方自治法にも規定されているが、配偶者や親族の請負を禁じていないため代表者の名義替えが横行している。よって、自治法の請負禁止規定を尊重し、努力規定として条例項目に入れるべき。</p>	
11	指定管理者の指定辞退	×	×	○	○	○	○	<p>【自参無】同上</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【共産】区民から疑惑を持たれないため辞退すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】努力規定ではなく義務規定として必要であると考え、努力義務でなければ憲法違反(企業の契約の自由、営業の自由)の疑義が生じるとの説がある。(他自治体でも義務規定の事例なし)</p>	
12 否	依頼等の記録義務	×	×	×	×	△	×	<p>【自参無】政治倫理基準③の規定で足りる。区側において規定済</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】不正な働き掛け等が区職員にあった場合は、区職員が記録表を作成することになっているため。</p> <p>【共産】基本的な議員活動を逐一報告することになり、適切ではないと考える。</p> <p>【維新】区職員が作成する記録表で足りる可能性があり、その場合は不要(×)。</p> <p>【無所属】行政側で口利き記録制度が導入されている為、不要と考えます。</p>	
13	資産公開	×	×	△	○	×	○	<p>【自参無】意義がない</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】全議員が対象ではなく審査会が必要と認めた場合のみ当該議員に求めることができるとしたい。</p> <p>【共産】資産公開を行うことにより、不正の防止につながると考える。</p> <p>【維新】不正防止に効果があるとは言えない。</p> <p>【無所属】贈収賄を防止する為、また「政治倫理の確立のための国会議員の資産等の公開等に関する法律」に基づき、公職者の適格性を審査するために必要。配偶者等の資産報告は都議会では既に導入されている。</p>	
14	問責制度	×	×	×	△	×	○	<p>【自参無】司法判断が待たれるタイミングで実効性に欠ける。司法判断後においても出処進退は議員本人が決めるべき</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】昨年江東区議会では、汚職防止対策等検討会において、議員報酬及び費用弁償に関する条例の改正を行っているため。</p> <p>【共産】説明責任を果たすことは重要である。</p> <p>【維新】積明の必要性はない。</p> <p>【無所属】司法判断とは別に、区議会としての信頼回復をはかり、事件の被疑者・被告人が住民を代表する公職に留まることの政治倫理責任を問いたす必要があるため。</p>	<p>【共産】起訴された場合は、「説明会の開催を求めることができる」ではなく「開催しなければならない」とすべき。また、「開催されない場合、区民が開催を請求できる」との項目を設けるべき。</p> <p>【無所属】一般職であれば刑事事件の起訴で休職、有罪判決で免職になるのが通例であるため、議員も同様に問責事由は刑事事件とする。また、推定無罪の原則に則り、逮捕後の説明会は被疑者の申し出による開催を原則として、区民は起訴後に説明会の開催を請求する事ができる様にする。</p>
	その他必要な項目【誓約書】						○	<p>【無所属】全議員に政治倫理条例の遵守を誓約させる上で必要と考えます。</p>	

【自由意見欄】

【新時代】○心無い元議員の身勝手な行動から今回の条文作成に至ったと認識している。本来は議員一人ひとりが議会人として高い倫理意識を持ち、職務を遂行していれば起り得ない事案である。故に政治倫理条例は最低限のものでよいと考えている。政治倫理基準に関しては事務局が案として示して頂いたものを参考とさせて頂いております。これに即して進めるべきとの考えです。○ソーシャルメディア運用ガイドラインの設置時代に即して準備をする必要があると考える。

【無所属】

政治的な采配や条例の悪用を防ぐ為、審査会の構成は議員が入らず、「社会的信望があり、地方行政に関し識見の高いものの中から議長が委嘱」する多摩市議会形式を採用すべき。また、審査会の審議は原則公開とし、傍聴については本会議同様の規定を設けるべきと考えます。

入札・契約にかかる不適切な取扱いの具体例

1. 特定の業者に受注（公募型プロポーザル方式における選定を含む。）させる、または受注させないようにすること。
 - （例）特定の業者に有利または不利となるような仕様とすること。
 - （例）特定の業者の受注または非受注を目的として、予定価格の引き上げまたは引き下げを行うこと。
 - （例）特定の業者が受注できるよう、恣意的に分割発注等を行うこと。
 - （例）特定の業者に他の業者等の見積書の取りまとめを依頼すること。

2. 特定の業者を入札に参加させる、または参加させないようにすること。
 - （例）業者に対して入札の参加または不参加を働きかけること。
 - （例）特定の業者の入札参加または不参加を目的として、仕様や発注方法等の変更等を行うこと。
 - （例）特定の業者の入札参加または不参加を目的として、入札参加資格要件について不当な便宜を図ること。

3. 非公表または公表前の、入札・契約にかかる以下の情報について、漏洩したり、推測できるように示唆したりすること。
 - ・入札参加資格要件
 - ・入札参加者名（特定の業者の入札参加の有無や、JVの組合せを含む。）
 - ・入札参加者数
 - ・入札参加者に関する情報（所在地等）
 - ・予定価格（設計金額、見積金額を含む。）
 - ・最低制限価格
 - ・低入札価格制度における調査基準価格および失格基準価格
 - ・総合評価方式における施工能力評価点及び地域貢献点
 - ・工事概要、設計書
 - ・工事図面
 - ・その他入札・契約に関して、一般に公表されていない事項

4. 非公表または公表前の、公募型プロポーザル方式にかかる以下の情報について、漏洩したり、推測できるように示唆したりすること。
 - ・業務概要、仕様書
 - ・企画提案書の作成方法

- ・提案上限金額
- ・参加者の資格要件
- ・選定方法
- ・評価基準
- ・申込業者から提出のあった応募書類
- ・その他公募に関して、一般に公表されていない事項

5. 工事や物品納入、業務委託等の下請業者の選定に関して、特定の業者を選定するよう元請業者に対して指導すること。

6. 契約変更の協議において、不当な便宜を図ること。

7. 監督や履行確認、検査において、不当な便宜を図ること。

(例) 工事成績評定や建物清掃等の業務成績評定において、評定を不当に高く(低く)すること。

第6回 政治倫理に関する検討会次第

日時：令和5年11月28日（火）

議会運営委員会終了後

場所：江東区議会（第一委員会室）

協議事項

- 1 （仮称）江東区議会議員政治倫理条例について （資料1－1）
（資料1－2）
（資料2）
- 2 その他

(仮称) 江東区議会議員政治倫理条例 (案)

(目的)

第1条 この条例は、江東区議会（以下「議会」という。）及び江東区議会議員（以下「議員」という。）が区民の代表として人格及び倫理の向上に努め、その権限又は地位に基づく影響力を不正に行使して自己又は特定の者の利益を図ることのないよう政治倫理に関する基準を定めるなど、必要な措置を講ずることにより、区政に対する区民の信頼に応えとともに、公正で開かれた区政の発展に寄与することを目的とする。

(議会の役割)

第2条 議会は、前条の目的を達成するため、議員の政治倫理向上に資する取組を進めるとともに、区民に対する説明責任を果たし、並びに公正性及び透明性を確保しなければならない。

(議員の責務)

第3条 議員は、法令、条例等を遵守し、区民の代表として区政にかかわる権能と責務を深く自覚し、政治倫理基準を遵守して活動しなければならない。

2 議員は、自ら研鑽を積み、資質を高めるとともに、区民の信頼に値する倫理性を自覚し、区民の代表として名誉と品位を損なうような一切の行為を慎むよう努めなければならない。

3 議員は、議会及び議員の活動を積極的に区民に明らかにし、自ら率先して説明責任を果たさなければならない。

(区民の役割)

第4条 区民は、議員に対し、その権限又は地位の影響力を不正に行使させるよう働き掛けるなど、政治倫理基準を逸脱するいかなる行為も求めてはならない。

2 区民は、区民の代表たる議員の活動及び政治姿勢に注目するとともに、議員に対し、説明を求めることができる。

(政治倫理基準)

第5条 議員は、常に人格及び倫理の向上に努め、次に掲げる政治倫理基準を遵守しなければならない。

(1) 区政運営若しくは議会運営に著しく影響を与え、区民の信用若しくは信頼を失墜させる行為又は不正の疑惑を持たれる恐れのある行為を行わないこと。

(2) 区が行う委託、請負その他の契約、若しくは指定管理者の指定に関し、その権限又は地位の影響力を不正に行使し、特定の個人、企業又はその他の団

体のために、有利又は不利な取り計らいをしないこと。

- (3) 区職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、又は
抛出している団体及び指定管理者の職員に対し、その権限又は地位を利用
することにより、公正な職務執行を妨げ、職権を不正に行使する働き掛けを
しないこと。また、職員の採用、異動及び昇任に不当に関与する行為をしな
いこと。 → 削除するか否か

- (4) その権限又は地位を利用して、職務の公正を疑われるような、いかなる金
品等も授受しないこと。

- (5) その権限又は地位を利用して、嫌がらせをし、強制又は強要し、若しくは
圧力をかけるなど、人権侵害のおそれのある全てのハラスメント行為や他
人の名誉を毀損する一切の行為をしないこと、又は第三者をして同様の行
為をさせないこと。 → 削除するか否か

- (6) 报告会、チラシ、SNS等を利用した情報発信により、虚偽の事実を提示
し、又は誹謗中傷の発言をするなど、他人の名誉を毀損し、若しくは人格を
損なう一切の行為をしないこと、又は第三者をして同様の行為をさせない
こと。 → 追加するか否か

- 2 議員は、政治倫理基準に反する事実があるとの疑惑を持たれたときは、
自ら誠実な態度をもって、真相を明らかにするとともに、区民並びに議会に
対して説明責任を果たさなければならない。

(兼業の報告義務)

第6条 議員は、自らが区に対し請負をする場合又は次の各号のいずれかに該
当する法人等の役員、顧問若しくはこれらに準ずる職に就いた場合（既に就
いている場合を含む。）には、議長に対し、速やかに兼業報告書を提出しな
なければならない。当該報告書の内容に変更があったときも同様とする。

- (1) 主として収益事業を営む法人等

→ 区に対し請負をする法人等、とするなど、限定するか否か

- (2) 区の許認可が必要な事業を営む法人等

- (3) 区から補助金等を受け、若しくは受けようとする法人等

- (4) 区の指定管理者の指定を受ける法人等

- 2 議長は、前項の規定により提出された兼業報告書を、当該報告書を提出し
た議員の在任期間中、区民の閲覧に供しなければならない。

(調査請求)

第7条 議員が政治倫理基準に違反する行為をした疑いがあると認めるとき
は、請求代表者が、区民にあっては、議員の選挙権を有する者の●人（●分の
1）以上の連署をもって、議員にあっては、議員定数の8分の1以上の者の連

署をもって、議長に調査請求をすることができる。この場合において、請求代表者は、当該行為に係る資料を添付した別に定める調査請求書を、議長に提出しなければならない。

- 2 議長は、前項の調査請求書を受理したときは、その記載内容及び添付書面を確認し、不備があると認めるときは、相当の期間を定めて請求代表者に対し、その補正を命ずることができる。
- 3 議長は、調査請求の内容が政治倫理基準に違反する行為に該当しないなど、別に定める要件を満たしていないとき、又は請求代表者が前項の補正命令に従わないときは、当該請求を却下するものとする。調査請求が不適法であって補正することができないことが明らかなきも同様とする。
- 4 調査請求は、当該請求に係る行為のあった日の翌日から起算して \square 年を経過したときは、することができない。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りでない。

(審査会の設置)

第8条 議長は、前条の調査請求が適正であると認めたときは、速やかに江東区議会議員政治倫理審査会（以下「審査会」という。）を設置し、審査を付託する。

- 2 審査会の委員は、審査の対象となった議員（以下「審査対象議員」という。）を除く \square 人以内とし、議長が委嘱する。
- 3 審査会には委員の互選により会長及び副会長を置く。
- 4 委員の任期は、前条の調査請求に係る審査が終了するまでとする。

(審査会の審査)

第9条 審査会は、審査事案の審査を付託されたときは、政治倫理基準の違反行為の存否及び条例に定める措置について審査及び決定する。

- 2 審査会は、前項の審査を行うため、審査対象議員又は関係人に対し、事情聴取等必要な調査をすることができる。
- 3 審査対象議員は、審査会から審査に必要な資料の提出又は審査会への出席要求がある場合、それに従わなければならない。
- 4 審査会は、審査に際し、審査対象議員に文書又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。
- 5 審査会は、審査付託の日から \square 日以内に、議長に対し審査結果を報告するように努めるものとする。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りでない。
- 6 審査会は、審査対象議員が政治倫理基準に違反していると認められる場合は、議長に対して必要な措置を講じるよう求めるものとする。

(審査結果の通知及び公表)

第10条 議長は、審査会から審査結果の報告を受けたときは、請求代表者及び審査対象議員に文書で通知するとともに、その概要をホームページ等で公表するものとする。

(議会の措置)

第11条 議会は、審査会からの報告及び勧告を受けた事項を尊重し、政治倫理基準に違反したと認められるときは、議会の名誉と品位を守り、区民の信頼を回復するために必要と認められる措置を講ずるものとする。

→ 措置を明記するか否か(条例に明記するか、規程に明記するか、明記せず審査会等で決めるか)

2 議長は、審査会より審査対象議員に政治倫理基準に違反していないと報告を受けたときは、対象議員の名誉を回復する措置を決定するものとする。

(措置の公表)

第12条 議長は、前条の措置を行ったときは、その概要をホームページ等で公表するものとする。

(施行期日)

この条例は、令和●年●月●日から施行する。

政治倫理条例案に対する課題整理表

項目	課題	補足
兼業の報告義務	<ul style="list-style-type: none"> 区と関わりのない企業等の役員となった場合も報告対象とするか。 区民の閲覧方法をどうするか。 (請求時に開示 or 常時閲覧可)	<ul style="list-style-type: none"> 北区は請求があった際に区民に掲示する。
住民・議員の調査請求	<ul style="list-style-type: none"> 住民の調査請求について何人(何分の1)以上で可能とするか。 (50分の1、2,000人、100人、1人) <ul style="list-style-type: none"> 請求期限は設けるか。設ける場合は期限をどうするか。 (1年、4年、在任期間、期限なし)	<ul style="list-style-type: none"> 墨田区・新宿区は1年の請求期限で、北区は期限がない。
政治倫理審査会	<ul style="list-style-type: none"> 審査会委員の人数・構成及び決定方法をどうするか。 (議員は半数以下、議員を除く等) <ul style="list-style-type: none"> 審査会は臨時型か常設型か。 審査期日は何日とするか。 (60日、90日) <ul style="list-style-type: none"> 審査会の審議を公開するか。 (非公開、原則非公開、原則公開)	<ul style="list-style-type: none"> 川越市は議員以外が委員となるが、臨時型としている。 尼崎市は委員を何人と決めずに、12人以内としている。 常設型は案件が無くても年に1回程度会議を開き、外部有識者等に報償費を支払う例が多い。 多摩市や八王子市は審査期日を明記していない。
議会の措置	<ul style="list-style-type: none"> 「議会は区民の信頼を回復するために必要な措置を講ずる」とし、規程に具体的な措置の内容を定めるか、又は具体的な措置を明記せずに審査会で措置を決定するか。 (条例明記、規程明記、明記しない) <ul style="list-style-type: none"> 措置の種類をどうするか。 (①議場における議長による注意 ②議会・委員会等の一定期間の出席停止勧告 ③議長・委員長等の役職辞任勧告 ④議員辞職勧告 ⑤その他、議長が必要と認めた措置 など)	<ul style="list-style-type: none"> 北区は規程等に措置の内容を定めている。 新宿区は条例及び規程に具体的な措置を明記していない。 墨田区は条例に具体的な措置を明記しており、左記のほか、「議場における謝罪文の朗読」、「議会の特別委員の辞任勧告」などがある。

政治倫理条例の条文構成に対する検討項目

※太枠部分は条文構成に入れるか検討が必要。

番号	項目	要否						○、×、△の理由	○、△の場合の条文の中身等についての意見
		自 参 無	新 時 代	公 明	共 産	維 新	無 所 属		
1 要	目的	△	○	○	○	○	○	【共産】条例の対象は、江東区議会と江東区議会議員とすべき。 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】立法目的を明らかにし条例の内容を簡潔に示し、解釈運用の指針として必要	【自参無】4行目 区民の信頼→区民からの信頼 【無所属】この条例は、区政が区民の厳粛な信託によるものであることにかんがみ、その受託者たる区議会の議員は、区民全体の奉仕者として人格と倫理の向上に努め、いやくもその権限または地位の影響力を不正に行使して自己又は特定の者の利益を図ることのないよう必要な措置を講ずることにより、区政に対する区民の信頼に応えとともに、区民が区政に対する正しい認識と自覚を持ち、もって公正で開かれた民主的な区政に寄与することを目的とする
2 要	議会の役割	○	○	○	○	○	○	【自参無】適切 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】憲法(第93条)並びに地方自治法(第89条、96条)にも明文化されているが、改めて役割を明確にすることで政治倫理条例上の義務規定を求める事ができるため	
3 要	議員の責務	○	○	△	○	○	○	【自参無】適切 【公明】事件があった江東区だからこそ、会津若松市の条文を引用 【維新】簡潔明瞭である。	【公明】議員は、法令、条例等を遵守し、区政にかかわる権能と責務を深く自覚し、政治倫理基準を遵守して活動しなければならない。 2 議員は自ら研鑽を積み、資質を高めるとともに、区民の信頼に値する倫理性を自覚し、区民のお手本となるようその品位の保持に努めなければならない。 【無所属】議員は、区民の信頼に値する倫理性を自覚し、区民に対し自らすすんでその高潔性を明らかにしなければならない
4 要	区民の役割	△	○	○	○	○	○	【自参無】項目自体が必要か疑問 【維新】簡潔明瞭である。	【無所属】区民は、主権者として区政に参加し、公共の利益を実現する自覚を持ち、議員に対しその権限又は地位の影響力を不正に行使させるような働きかけをしてはならない
5 要	政治倫理規準	○	○	○	○	○	○	【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】国会議員に対して国会法で定められている「政治倫理綱領」と「行為規範」同様に、地方議員として遵守すべき行為規範を定めるものとして必要	
要	①信用失墜行為の禁止	△	○	△	△	○	○	【公明】議員として律していく言葉を入れる。 【共産】「著しく影響を与え」との文言はいまいである。 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】抽象的で訓示的であっても原則的な規定として必要	【自参無】2行目 著しく は削除すべき 【公明】区政運営若しくは議会運営に著しく影響を与え、又は区民の信用若しくは信頼を著しく失墜される行為や地位を利用した行為などを行わないこと。 【共産】「区民全体の代表者として、品位と名誉を損なう一切の行為を慎み、その職務に関し、不正の疑惑を持たれる恐れのある行為を行わないこと。」との記載に変更してはどうか。
要	②契約における不正な働きかけの禁止	△	○	○	△	○	○	【自参無】会派内で賛否意見が分かれる契約事務は執行部の範疇となることから、議員による提案・紹介活動を「特定の個人・団体」のために有利になる活動とは断言できないのでは。議会側だけでなく執行部側の倫理規定が必要となる。 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】契約にかかる権限は議会(議員)に一切なく、契約に繋がる様な働きかけは一切慎むべきだと考える。参考程度の情報提供以外に、行政側への働きかけを行う事を禁止とすべき。	【自参無】条文において、区政の発展に資する提案活動については担保されるべき 【共産】「指定管理者の指定」についても明記すべき。
要	③不当な影響力行使の禁止	○	○	△	△	○	○	【自参無】適切 【公明】職務執行への不当介入と職員の採用に関しても触れるべきでは。 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】職員の職務執行への不当介入の禁止」と併せて必要	【公明】区職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、または拠出している団体及び指定管理者の職員に対し、公正な職務執行を妨げ、不正に行わせるような働きかけをしないこと。また職員の採用や異動への不正介入や昇任もしくは人事異動に関し、推薦や紹介をしないこと。 【共産】職員採用等のあっせん禁止についても明記すべき。
要	④地位を利用した金品等授受の禁止	○	○	○	○	○	○	【自参無】適切 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】たとえ刑法上の収賄罪に当たらなくても、公職者がその地位を利用して金品を授受することは公正な職務の執行を損ない、不正の疑惑を持たれるおそれのある行為に抵触するため	
	⑤道義的批判を受ける寄附等の自粛	×	○	○	○	○	○	【自参無】「政治的・道義的な批判」が客観的に判断が困難。政治資金規正法において規定されている。 【維新】簡潔明瞭である。 【無所属】法律では一定の企業献金を禁じている一方で、政党や政治団体の寄付金の授受は認めている。政党支部が受けた企業献金を議員の資金管理団体に移す「迂回献金」が多発しているため、違法性がなくとも政治的・道義的に正される必要があると考える。	【無所属】政治活動に関して企業、団体から寄付を受けないこととし、資金管理団体についても政治的又は道義的批判を受けるおそれのある寄附を受けないこと

政治倫理条例の条文構成に対する検討項目

番号	項目	要否						○、×、△の理由	○、△の場合の条文の中身等についての意見
		自 参 無	新 時 代	公 明	共 産	維 新	無 所 属		
要	⑥人権侵害のおそれのある行為の禁止	○	○	△	○	○	△	<p>【自参無】適切</p> <p>【公明】⑥と⑦を合わせて人権侵害の恐れのある行為や名誉棄損行為、守秘義務違反をしないこと。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】人権侵害行為には人権侵害行為を行うことの煽動、第三者の行った人権侵害行為に対する賛成の意見の表明その他の人権侵害行為を助長する行為が含まれ、特定の行為を規定することが難しいため協議が必要</p>	<p>【公明】人権侵害の恐れのあるすべてのハラスメント行為をしないこと。情報発信において虚偽や誹謗中傷の発言で他人の名誉を棄損し、あるいは人格を損なう一切の行為をしないこと。また非公開の会議の内容に関する情報を発信しないこと。</p> <p>【無所属】基本的なものとしては「セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、その他の人権侵害のおそれのある行為」</p>
要	⑦名誉棄損行為の禁止	×	○	△	△	○	△	<p>【自参無】「虚偽」をどのように認定するのか。⑥の規定で十分ではないか。ガイドライン制定などで対処すべきでは。</p> <p>【公明】⑥と⑦を合わせる守秘義務違反を入れる。</p> <p>【共産】何が「誹謗中傷」にあたるかは判断が難しいので、乱用を防ぐため、禁止事項を明確にすべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】議員の責務として含める場合不要と考える</p>	<p>【無所属】Ex. 市民全体の代表者として、名誉と品位を損なうような一切の行為を慎み…</p>
	⑧反社会的な団体等との関わりの禁止	×	○	○	○	○	○	<p>【自参無】反社会的団体の特定はどのようにするのか。江東区暴力団排除条例で対処すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p>	<p>【無所属】暴力団等反社会的勢力を利用しない、暴力団等反社会的勢力に利用されない、又は暴力団等反社会的勢力に関与しないこと</p>
否	⑨その他法令等違反の禁止	×	×	○	○	○	△	<p>【自参無】内容がはっきりとしない</p> <p>【新時代】前提が当然のことであるので明記する必要なし。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】まずは条例制定を進め、その後の改正毎に協議する必要があると考えます</p>	
6 要	兼業の報告義務	△	○	△	△	○	○	<p>【自参無】疑いが生じる前の報告であることから○。</p> <p>【公明】北区のように企業等の役員になっている場合に関しても、報告の義務付けは必要と考える。研修の中で江東区でも透明性の確保は必要との観点から。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】中立公平である事を担保させる為必要</p>	<p>【自参無】区に関わる法人に限定すべき。議員本人のみ報告とすべき。</p> <p>【新時代】議員のみ、改選時と変化があった際に報告。オーナーや株主となった場合の対応はどう考えるか？</p> <p>【公明】議員は、毎年4月1日において企業その他の団体の役員、顧問その他の職に就いている場合には、当該団体の名称及び住所並びに当該職名を記載した兼業・兼職報告書を同月2日から同月30日までの間に、議長に提出しなければならない。なお、兼業・兼職報告書の内容に変更が生じた場合は、兼業・兼職変更届を速やかに議長に提出しなければならない。</p> <p>2 議長は、前項の規定により提出された兼業報告書を、当該報告書を提出した議員の在任期間中、区民の閲覧に供しなければならない。</p> <p>【共産】「指定管理者の指定」を受けた場合についても加えるべき。</p>
7 要	住民・議員の調査請求	○	○	○	△	△	△	<p>【公明】区民100人以上、議員は1/8以上でよいのではないか</p> <p>【共産】請求期限は1年では短すぎる。</p> <p>【無所属】住民の調査請求権は必要。議員の調査請求権を認めると多数派による議会統制に悪用される恐れがあるため反対。</p>	<p>【自参無】調査請求に要する連署 議員：定数の1/8以上、住民：選挙権を有する区民2000人以上</p> <p>【新時代】事務監査請求に合わせて1/50で設定。</p> <p>【公明】100人以上でも対応は大変と考える。</p> <p>【共産】区民が請求できる人数については、事務監査請求の「有権者の50分の1以上」を当てはめてはどうか。議員については、懲罰動議提出の8分の1を参考にすべき。請求期限は設けず、いつでも行えるようにし「任期中」とした場合、4年ではなく、議員の職にある間は請求できることとすべき。</p> <p>【維新】4（調査請求の期限）は削除</p> <p>【無所属】情報開示請求や住民監査請求同様に、選挙権を有する市民1人以上とする。請求権の濫用を防ぐために、請求要件に「疎明資料」の添付を義務付ける。</p>
8 要	政治倫理審査会	○	○	△	△	△	○	<p>【公明】○資産報告書の提出を当該議員に審査会から求めることを入れる。○臨時的か常設型は、臨時では外部有識者の対応が難しいため、常設の方が対応しやすいのではと考える。多摩市では、常設で任期が2年間。任期ごとに調査請求がなかった場合、任命で2年に1度審査会を開催し、1度だけ報償が発生。外部有識者や市民公募、元市職員などで行っている。第三者での審査会が必要も議員が一部は対応している議会が多い。川越市では、臨時で行い、外部有識者を入れているが議員も委員を担っている。○審査会委員は10名以上のところもあるが、5名ぐらいで1~2名を有識者、2名を区民公募、1~2名を議員でもよいのでは。</p> <p>【共産】公平性・公正性をきすために、構成員は議員以外とすべき。</p> <p>【無所属】会員は議員を含めず、選挙権を持つ区民と有識者で組織される必要がある。</p>	<p>【自参無】審査会は非常設。調査請求が成立した際に議長から委嘱。構成は議員・区民・有識者で構成（定数を10人程度 議員4人程度 区民と識見者で6人程度）</p> <p>【新時代】議員を除いた第三者会を設置すべき</p> <p>【公明】審査会が事案解明のため必要と認めた場合において、審査対象議員に対し、資産報告書の提出を求めることができる、という文面を追加する</p> <p>【共産】議長の諮問機関として、司法、会計等の専門家、および公募区民による常設の審査会を設置し、報償費を支払うこととすべき。議員は構成員からは除外すべき。審査期限は60日以内とすべき。</p> <p>【維新】委員は区民と有識者が半数以上を占めるのが適当</p>

政治倫理条例の条文構成に対する検討項目

番号	項目	要否						〇、×、△の理由	〇、△の場合の条文の中身等についての意見
		自 参 無	新 時 代	公 明	共 産	維 新	無 所 属		
9 要	議会の措置	△	○	○	△	○	○	<p>【新時代】議会の権能としてあるべき。</p> <p>【公明】無いと注意や勧告にとどまってしまう。資産公開の効果は僅かかもしれないが、含めた方がより良い執行になると考える</p> <p>【共産】議長個人の判断ではなく、議会として行う措置であることを明記すべき。</p> <p>【無所属】審査会等の意見書を反映し、都度措置を協議する内容とするものが良いと考える。</p>	<p>【自参無】措置を講ずるのは議会とすべき 実効性の観点から「議会は区民の信頼を回復するために必要な措置を講ずる」とするべき</p> <p>【共産】議会の措置の主語は「議長」ではなく「議会」にすべき。議会だより、HPでの公表を加えるべき。</p> <p>【維新】1 (3) は墨田区を参考にしたい。</p>
10	請負等の制限	×	×	○	○	○	○	<p>【自参無】地方自治法に準拠した請負は認めるべき。災害協定に基づく請負も想定される。6. 兼業報告で賄える。</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【共産】区民から疑惑を持たれないため辞退すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】地方自治法にも規定されているが、配偶者や親族の請負を禁じていないため代表者の名義替えが横行している。よって、自治法の請負禁止規定を尊重し、努力規定として条例項目に入れるべき。</p>	
11	指定管理者の指定辞退	×	×	○	○	○	○	<p>【自参無】同上</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【共産】区民から疑惑を持たれないため辞退すべき。</p> <p>【維新】簡潔明瞭である。</p> <p>【無所属】努力規定ではなく義務規定として必要であるとするが、努力義務でなければ憲法違反(企業の契約の自由、営業の自由)の疑義が生じるとの説がある。(他自治体でも義務規定の事例なし)</p>	
12 否	依頼等の記録義務	×	×	×	×	△	×	<p>【自参無】政治倫理基準③の規定で足りる。区側において規定済</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】不正な働き掛け等が区職員にあった場合は、区職員が記録表を作成することになっているため。</p> <p>【共産】基本的な議員活動を逐一報告することになり、適切ではないと考える。</p> <p>【維新】区職員が作成する記録表で足りる可能性があり、その場合は不要(×)。</p> <p>【無所属】行政側で口利き記録制度が導入されている為、不要と考えます。</p>	
13	資産公開	×	×	△	○	×	○	<p>【自参無】意義がない</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】全議員が対象ではなく審査会が必要と認めた場合のみ当該議員に求めることができるとしたい。</p> <p>【共産】資産公開を行うことにより、不正の防止につながるかと考える。</p> <p>【維新】不正防止に効果があるとは言えない。</p> <p>【無所属】贈収賄を防止する為、また「政治倫理の確立のための国会議員の資産等の公開等に関する法律」に基づき、公職者の適格性を審査するために必要。配偶者等の資産報告は都議会では既に導入されている。</p>	
14	問責制度	×	×	×	△	×	○	<p>【自参無】司法判断が待たれるタイミングで実効性に欠ける。司法判断後においても出処進退は議員本人が決めるべき</p> <p>【新時代】必要なし</p> <p>【公明】昨年江東区議会では、汚職防止対策等検討会において、議員報酬及び費用弁償に関する条例の改正を行っているため。</p> <p>【共産】説明責任を果たすことは重要である。</p> <p>【維新】積明の必要性はない。</p> <p>【無所属】司法判断とは別に、区議会としての信頼回復をはかり、事件の被疑者・被告人が住民を代表する公職に留まることの政治倫理責任を問いたす必要があるため。</p>	<p>【共産】起訴された場合は、「説明会の開催を求めることができる」ではなく「開催しなければならない」とすべき。また、「開催されない場合、区民が開催を請求できる」との項目を設けるべき。</p> <p>【無所属】一般職であれば刑事事件の起訴で休職、有罪判決で免職になるのが通例であるため、議員も同様に問責事由は刑事事件とする。また、推定無罪の原則に則り、逮捕後の説明会は被疑者の申し出による開催を原則として、区民は起訴後に説明会の開催を請求する事ができる様にする。</p>
否	その他必要な項目【誓約書】						○	<p>【無所属】全議員に政治倫理条例の遵守を誓約させる上で必要と考えます。</p>	

【自由意見欄】

【新時代】〇心無い元議員の身勝手な行動から今回の条文作成に至ったと認識している。本来は議員一人ひとりが議会人として高い倫理意識を持ち、職務を遂行していれば起り得ない事案である。故に政治倫理条例は最低限のものでよいと考えている。政治倫理基準に関しては事務局が案として示して頂いたものを参考とさせて頂いております。これに即して進めるべきとの考えです。〇ソーシャルメディア運用ガイドラインの設置時代に即して準備をする必要があると考える。

【無所属】

政治的な采配や条例の悪用を防ぐ為、審査会の構成は議員が入らず、「社会的信望があり、地方行政に関し識見の高いものの中から議長が委嘱」する多摩市議会形式を採用すべき。また、審査会の審議は原則公開とし、傍聴については本会議同様の規定を設けるべきと考えます。

豊島区議会議員の政治倫理に関する条例

(目的)

第1条 この条例は、区政が区民の厳粛な負託によるものであることに鑑み、その受託者たる豊島区議会（以下「議会」という。）の議員（以下「議員」という。）が区民全体の奉仕者として人格及び倫理向上に努め、いやしくもその権限又は地位に基づく影響力を不正に行使して自己又は特定の者の利益を図ることのないよう議員活動の行動規準及び区民に対する説明責任等を定め、もって公正で開かれた民主的な区政の発展に寄与することを目的とする。

(議会の役割)

第2条 議会は、前条の目的を達成するため、議員の政治倫理向上に資する取組を進めるとともに、議員活動の公平性及び透明性を確保しなければならない。

(議員の責務)

第3条 議員は、区民の代表として区政にかかわる権能と責務を深く自覚し、第5条第1項各号に定める政治倫理規準（以下「政治倫理規準」という。）及び法令、条例等を遵守して活動しなければならない。

- 2 議員は自ら研鑽を積み、資質を高めるとともに、区民の信頼に値する倫理性を自覚し、その品位の保持に努めなければならない。
- 3 議員は、政治倫理規準及び法令、条例等を遵守し、公正な職務執行を妨げるいかなる不当な要求にも屈してはならない。

(区民の役割)

第4条 区民は、議員に対し、政治倫理規準を逸脱する行為を求めてはならない。

(政治倫理規準)

第5条 議員は、次に定める政治倫理規準を遵守しなければならない。

- (1) 区政運営又は議会運営に著しく影響を与え、区民の信用又は信頼を著しく失墜させる行為を行わないこと。
- (2) その権限又は地位を利用して、職務の公正を疑わせるような金品の授受等をしないこと。
- (3) 政治資金規正法（昭和23年法律第194号）等の法令に違反する寄附等のほか、政治活動に関し、政治的又は道義的な批判を受けるおそれのある寄附等を受けないこと。
- (4) 区の職員並びに区が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資し、又は拠出している団体及び指定管理者の役職員に対し、その権限又は地位を利用することにより、公正な職務執行を妨げ、又は職権を不正に行使するよう働き掛ける行為をしないこと。
- (5) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団、その他不法行為を繰り返す反社会的な団体

及び個人と一切の関係を持たないこと。

(6) その権限又は地位を利用して、何人に対しても、嫌がらせをし、強制若しくは強要し、又は圧力をかける等、人権侵害のおそれのある全てのハラスメント行為をしないこと。

2 議員は、政治倫理規準に反する事実があるとの指摘を受けたときは、自ら誠実な態度をもって、真相を明らかにするとともに、説明責任を果たさなければならない。

(兼業の報告義務)

第6条 議員は、自らが主として収益事業を営む場合（既に営んでいる場合を含む。）又は自らが主として収益事業を営む法人等の役員、顧問若しくはこれらに準ずる職（以下「役員等」という。）に就いた場合（既に就いている場合を含む。）には、議長に対し、速やかに兼業報告書を提出しなければならない。当該報告書の内容に変更があったときも同様とする。

(請負及び指定管理に係る義務)

第7条 議員は、区に対して請負（業として行う工事の完成若しくは作業その他の役務の給付又は物件の納入その他の取引をいう。以下同じ。）をする場合又は区から指定管理者の指定を受ける場合は、法令、条例等を遵守し、かつ区民に疑念を生じさせないように努めなければならない。

(請負の報告義務)

第8条 議員は、自らが事業を営んでいる場合の当該事業、又は当該議員が役員等に就いている法人等の事業のうち、前会計年度（当該議員が議員である期間に限る。）における区に対する請負がある場合は、議長に対し、速やかに請負状況等報告書を提出しなければならない。

2 議員は、議長に提出した請負状況等報告書の内容を訂正する必要があるときは、速やかに請負状況等訂正届を議長に提出しなければならない。

(閲覧)

第9条 議長は、第6条又は第8条の規定により提出された兼業報告書及び請負状況等報告書並びに請負状況等訂正届を、当該報告書を提出した議員の在任期間中、区民の閲覧に供しなければならない。

(調査請求)

第10条 議員に第5条、第6条及び第8条の規定に違反する行為又は法令若しくはこの条例以外の条例に違反する行為（以下「遵守義務違反行為」という。）をした疑いがあるときは、議員定数の8分の1以上（異なる2以上の、会派（2人以上の議員で構成する政策集団をいう。）又は会派に属さない議員で構成されている場合に限る。）の議員又は100人以上の区の区域内に住所を有する者で満18歳以上の者の連署をもって、それぞれの代表者（以下「請求代表者」という。）から議長に調査請求をすることができる。

- 2 前項の調査請求は、遵守義務違反行為に係る事実を証する書面を添えて、調査請求書を議長に提出して行うものとする。
- 3 議長は、前項の調査請求書を受理したときは、その記載内容及び添付書類を確認し、形式的な不備があると認めるときは、相当の期間を定めて請求代表者に対し、その補正を命ずることができる。
- 4 議長は、調査請求が議長が別に定める要件に該当するとき、又は請求代表者が前項の補正命令に従わないときは、当該請求を却下するものとする。遵守義務違反に係る調査になじまない事項であって実質的に補正することができないことが明らかであるものについても同様とする。
- 5 調査請求は、当該請求に係る行為があったことを知った日の翌日から起算して3か月を経過したときは、することができない。当該請求に係る行為のあった日の翌日から起算して1年を経過したときも、同様とする。ただし、正当な理由があると認められるときは、この限りではない。

(政治倫理調査特別委員会の設置等)

第11条 議長が前条第3項の規定による確認の結果、調査請求が適正であると認めたときは、豊島区議会委員会条例（昭和39年豊島区条例第32号。以下「委員会条例」という。）第4条に基づき政治倫理調査特別委員会（以下「委員会」という。）を設置し、当該調査請求に係る事案（以下「審査事案」という。）の審査を委員会に付託するものとする。

(委員会の審査)

第12条 委員会は、審査事案の審査を付託されたときは、遵守義務違反行為の存否及び次条に定める措置について審査及び報告する。

- 2 委員会は、前項の審査を行うため、調査請求の対象となる議員（以下「対象議員」という。）又は関係人に対し、事情聴取等必要な調査をすることができる。
- 3 対象議員は、委員会から審査に必要な資料の提出又は委員会への出席要求がある場合、それに従わなければならない。
- 4 委員会の審査に当たっては、委員会条例第26条の2に規定する参考人として、政治倫理に識見を有する者に出席を求めることができる。
- 5 委員会は、付託の日から90日以内に、議長に対し審査結果を報告するよう努めるものとする。
- 6 委員会は、審査に際し、対象議員の求めに応じ、弁明の機会を与えなければならない。

(遵守義務違反行為に対する措置)

第13条 対象議員に遵守義務違反行為があると認めた場合の措置は、次のとおりとする。ただし、2以上の措置を併せて講ずることを妨げない。

- (1) 議場における議長注意

- (2) 議場における対象者の謝罪文朗読
- (3) 一定期間の出席停止勧告
- (4) 当該議員が就任している役職の辞任勧告
- (5) 議員辞職勧告

(結果の公表)

第14条 議長は、審査事案の審査結果について、議決後、速やかに請求代表者に議決結果を送付するとともに、その概要を公表しなければならない。

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

政治倫理に関する議員研修の実施（案）について

1 研修の目的

江東区議会議員の倫理意識の向上を図るため。

2 日程・実施方法

- ・令和6年9月3日（火） 午後2時から4時まで
- ・区議会本会議場にて全議員を対象に実施

3 研修内容

「議員が守るべき政治倫理・コンプライアンス、議員とハラスメント」

●政治腐敗

- ・議員とわいろ罪
- ・あっせん収賄
- ・政治腐敗の隣接領域－地位利用の金品受領の禁止（事例研究を含む）－

●ハラスメント

- ・パワハラとは 裁判例・法律上の要件・典型類型など
- ・セクハラ・ソジハラとは 法律・報道・事例など
- ・対処のための取組みと多様化するハラスメント

4 研修講師

太田雅幸 氏

弁護士

【研修実績】 徳島県、奈良県、神奈川県大和市、千葉県九十九里町
千葉県鴨川市、兵庫県尼崎市、大阪府岸和田市 等
多数の自治体議会にて登壇実績あり